



IEEE

IEEE関西支部

IEEE Kansai Section (Geographic code R00983)

2022 年 IEEE 関西支部

総会資料

2022 年 2 月 22 日

IEEE 関西支部

総会資料目次

I.	2022 年関西支部役員・理事	1
II.	2022 年 KANSAI CHAPTER 役員	6
III.	2022 年関西支部 STUDENT BRANCH 役員	8
IV.	2021 年 活動報告 および 2022 年活動計画	10
V.	関西支部会員数	47
VI.	2021 年 会計報告	49
VII.	2022 年 予算	51
VIII.	受賞者	53
	参考情報	55



“2021 REGION 10 BEST MEMBERSHIP RETENTION LARGE SECTION AWARD”
Plaque

2022 年 IEEE 関西支部総会 プログラム

1. 日時:2022 年 2 月 22 日(火) 14 時 00 分～17 時 30 分
2. 場所: 大阪工業大学 梅田キャンパス OIT 梅田タワー 3 階 常翔ホール
〒530-0013 大阪市北区茶屋町1番45号
3. 総会スケジュール
 1. 役員・理事紹介
 2. 2021 年活動報告および 2022 年活動計画
 3. 2021 年会計報告および 2022 年予算
 4. IEEE Japan Council メダル授与規定の制定および IEEE 関西支部メダル授与規定の撤廃
<休憩>
 5. Chapter 役員および活動紹介
<休憩>
 6. IEEE 関西支部 Young Professionals 賞授賞式
 7. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
 8. IEEE Japan Council メダル授賞式(新 Senior Members)
 9. IEEE 関西支部新 Fellow 紹介
 10. 閉会の挨拶

I. 2022年関西支部役員・理事

1. 役員 (Section Officers)

Chair:	畑 豊	(兵庫県立大学)
Vice Chair:	松居 真一	(パナソニック)
Secretary/ Treasurer:	石田 達朗	(パナソニック)

2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	佐藤 高史	(京都大学)
NC Chair:	村田 忠彦	(関西大学)
SAC Chair:	福水 洋平	(立命館大学)
TPC Chair:	上田 哲三	(パナソニック)
AC Chair:	伊野 文彦	(大阪大学)
COC Chair:	戸出 英樹	(大阪府立大学)

3. 理事 (Affinity Group Chairs)

LMAG Chair:	小林 正明	(元三菱電機)
WIE AG Chair:	柳川 由紀子	(オムロン)
YP AG Chair:	塩見 準	(大阪大学)

4. 理事 (Activity Chair)

EA Chair:	田邊 信二	(元三菱電機)
-----------	-------	---------

5. 理事 (Past Officer)

Past Chair:	杉江 俊治	(京都大学名誉教授)
-------------	-------	------------

6. 理事 (Past Committee Chairs)

Past TPC Chair	西浦 敬信	(立命館大学)
----------------	-------	---------

7. (Observer)

次期事務局候補	井上 哲也	(住友電気工業)
次期事務局候補	向井 英之	(住友電気工業)

8. Committee Officers

a. Membership Development Committee

Chair:	佐藤 高史	(京都大学)
Secretary:	新谷 道広	(奈良先端科学技術大学院大学)
Member:	奥田 武夫	(オムロン)
	松居 真一	(パナソニック)
	澤田 宏	(日本電信電話)
	満仲 健	(シャープ)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	太田 快人	(京都大学)
	小林 浩	(三菱電機)
	中島 重義	(大阪市立大学)
	木村 啓明	(ローム)
	尾原 郁夫	(京セラ)
	加藤 貴敏	(村田製作所)
	柏 卓夫	(古野電気)
	八木 直美	(姫路獨協大学)

b. Nominations Committee

Chair:	村田 忠彦	(関西大学)
Member:	田畑 修	(京都先端科学大学)
	太田 淳	(奈良先端科学技術大学院大学)

c. Student Activities Committee

Chair:	福水 洋平	(立命館大学)
Member:	木村 達明	(大阪大学)
	白井 僚	(京都大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	加藤 恒夫	(同志社大学)
	市川 昊平	(奈良先端科学技術大学院大学)
	礪川 悌次郎	(兵庫県立大学)
	宝田 隼	(関西大学)
	木原 崇雄	(大阪工業大学)
	飯間 等	(京都工芸繊維大学)
	(Student Representative)	Zhaofeng Niu

d. Technical Program Committee

Chair:	上田 哲三	(パナソニック)
Vice Chair:	市川 治	(滋賀大学)
Secretary:	瀧川 信一	(パナソニック)

e. Awards Committee

Chair:	伊野 文彦	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	太田 正哉	(大阪府立大学)
	久保田 寛和	(大阪府立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	白石 善明	(神戸大学)
	杉原 英治	(関西学院大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	辻岡 哲夫	(大阪市立大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	林 和則	(京都大学)
	水谷 圭一	(京都大学)
	山田 晃久	(モリタホールディングス)
	和田 友孝	(関西大学)

f. Chapter Operations Committee

Chair:	戸出 英樹	(大阪府立大学)
Secretary:	藤本 章宏	(和歌山大学)
Member:	渡辺 博文	(元リコー)
	小林 和淑	(京都工芸繊維大学)
	武内 良典	(近畿大学)
	小西 善彦	(広島工業大学)
	林 海	(大阪府立大学)
	和田 敏裕	(三菱電機)
	檜橋 祥一	(摂南大学)
	小西 毅	(大阪大学)
	中村 哲	(奈良先端科学技術大学院大学)
	長谷 智弘	(龍谷大学)
	大塚 敏之	(京都大学)
	北條 昌秀	(徳島大学)
	戸川 欣彦	(大阪府立大学)

g. Life Members Affinity Group

Chair:	小林 正明	(元 三菱電機)
Vice Chair:	櫛木 好明	(元 パナソニック)
Vice Chair:	千葉 徹	(元 シャープ)
Vice Chair:	下原 勝憲	(同志社大学教授、元 ATR 所長)
Secretary:	平野 和夫	(元 住友電気工業)
Secretary:	杉本 繁	(元 パナソニック)

h. WIE (Women in Engineering) Affinity Group

Chair:	柳川 由紀子	(オムロン)
Vice Chair:	熊木 武志	(立命館大学)
Vice Chair:	辻川 美沙貴	(パナソニック)
Secretary:	Tran Thi Hong	(奈良先端科学技術大学院大学)
Treasurer:	岩元 美由紀	(京都大学)

i. YP (Young Professionals) Affinity Group

Chair:	塩見 準	(大阪大学)
Vice Chair:	北川 冬弥	(パナソニック株式会社)
Secretary/Treasurer:	佐藤 丈博	(京都大学)
Member:	伊原 彰紀	(和歌山大学)
	岩居 健太	(立命館大学)
	二社谷 一樹	(大阪大学)
	JEONG KWANGJIN	
	青木 信雄	(広島市立大学)

j. EA (Educational Activities)

Chair:	田邊 信二	(元三菱電機)
--------	-------	---------

II. 2022 年 Kansai Chapter 役員

1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	渡辺 博文	(元リコー)
Vice Chair:	木村 睦	(龍谷大学)
Secretary:	安藤 友一	(リコー)
Treasurer:	上沼 睦典	(奈良先端科学技術大学院大学)

2. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	小林 和淑	(京都工芸繊維大学)
Vice Chair:	橋本 隆	(パナソニック)
Secretary:	土谷 亮	(滋賀県立大学)
Treasurer:	杉本 浩一	(ミライズテクノロジーズ)

3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	武内 良典	(近畿大学)
Vice Chair:	井上 馨	(同志社大学)
Secretary:	木村 真之	(京都大学)
Treasurer:	塩見 準	(大阪大学)

4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

Chair:	小西 善彦	(広島工業大学)
Vice Chair:	内藤 出	(新居浜工業高等専門学校)
Vice Chair:	塩見 英久	(大阪大学)
Secretary:	山本 綱之	(津山工業高等専門学校)
Treasurer:	山本 尚武	(パナソニック)

5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	林 海	(大阪府立大学)
Vice Chair:	和田 友孝	(関西大学)
Secretary:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)
Treasurer:	熊本 和夫	(大阪工業大学)

6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	和田 敏裕	(三菱電機)
Vice Chair:	新谷 道広	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	河村 岳	(パナソニック)
Secretary:	石川 和史	(パナソニック)
Treasurer:	張 任遠	(奈良先端科学技術大学院大学)

7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	檜橋 祥一	(摂南大学)
Vice Chair:	河合 正	(兵庫県立大学)
Secretary:	金谷 康	(三菱電機)
Secretary:	石川 峻樹	(オリエントマイクロウェーブ)
Treasurer:	石野 祥太郎	(古野電気)

8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	小西 毅	(大阪大学)
Vice Chair:	戸田 裕之	(同志社大学)
Secretary:	高橋 和	(大阪府立大学)
Treasurer:	大和屋 武	(三菱電機)

9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	中村 哲	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
Secretary:	吉野 幸一郎	(理化学研究所)
Treasurer:	大谷 大和	(エーアイ)

10. CTS (Consumer Technology Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	長谷 智弘	(龍谷大学)
Vice Chair:	後藤 富朗	(名古屋工業大学)
Secretary:	Thi Thi Zin	(宮崎大学)
Treasurer:	西村 良太	(徳島大学)

11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	大塚 敏之	(京都大学)
Vice Chair:	藤本 健治	(京都大学)
Secretary:	櫻間 一徳	(京都大学)
Treasurer:	佐藤 訓志	(大阪大学)

12. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

Chair:	北條 昌秀	(徳島大学)
Vice Chair:	川畑 良尚	(立命館大学)
Secretary:	川上 太知	(大阪府立大学工業高等専門学校)
Treasurer:	石原 将貴	(岡山大学)

13. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

Chair:	戸川 欣彦	(大阪府立大学)
Vice Chair:	岡本 好弘	(愛媛大学)
Secretary:	藤枝 俊	(大阪大学)
Treasurer:	宍戸 寛明	(大阪府立大学)

III. 2022 年関西支部 Student Branch 役員

1. 大阪大学 (<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Mentor:	藤田 玄	(大阪電気通信大学)
Chair:	木村 駿	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Vice Chair:	松尾 快	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Treasurer:	福島 力也	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Secretary:	名富 太陽	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻

2. 京都大学 (<http://ieee.kuee.kyoto-u.ac.jp/>)

Counselor:	白井 僚	(京都大学 情報学研究科)
Mentor:	近村 啓史	(株式会社フィックスターズ)
Chair:	下里 京平	情報学研究科
Vice Chair:	有働 岬	情報学研究科
Treasurer:	村田 寛也	情報学研究科
Secretary:	一柳 優太	情報学研究科

3. 立命館大学 (<https://sites.google.com/site/ieeeritsumeikansb/home>)

Counselor:	孟 林	(立命館大学 准教授)
Chair:	渥美 柁彦	理工学研究科 電子システム専攻
Vice Chair:	横尾 健太朗	理工学研究科 電子システム専攻
Treasurer:	水野 拓己	理工学研究科 電子システム専攻
Secretary:	嶋田 知泰	理工学研究科 電子システム専攻

4. 奈良先端科学技術大学院大学 (<http://ieee-sb-naist.github.io/>)

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
Mentor:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Chair:	Niu Zhaofeng	先端科学技術研究科
Vice Chair:	Mutinda Faith Wavinya	先端科学技術研究科
Treasurer:	Mario Eduardo Aburto Gutierrez	先端科学技術研究科
Secretary:	Riza Rae Pineda	先端科学技術研究科

5. 兵庫県立大学 (<http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html>)

Counselor:	上浦 尚武	(兵庫県立大学 工学研究科 電子情報工学専攻)
Mentor:	中嶋 宏	(オムロン株式会社)
Chair:	岡 和範	工学研究科 電子情報工学専攻
Vice Chair:	橋本 尚典	工学研究科 電子情報工学専攻
Treasurer:	森田 蓮	工学研究科 電子情報工学専攻
Secretary:	山本 侃利	工学研究科 電子情報工学専攻

6. 関西大学 (http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/)

Counselor:	梶川 嘉延	(関西大学 教授)
Mentor:	辻川 剛範	(日本電気 情報・メディアプロセッシング研究所)
Chair:	森谷 真乃	理工学研究科システム理工学専攻
Vice Chair:	石倉 彰太郎	理工学研究科システム理工学専攻
Treasurer:	安田 昌弘	理工学研究科システム理工学専攻
Secretary:	川下 幸都	理工学研究科システム理工学専攻

7. 同志社大学 (<https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	高橋 康人	(同志社大学 准教授)
Chair:	辻川 昌太郎	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Vice Chair:	小糸 泰吉	大学院理工学研究科 情報工学専攻
Treasurer:	岩中 絢祐	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Secretary:	丸山 右京	大学院理工学研究科 情報工学専攻

IV. 2021 年 活動報告 および 2022 年活動計画

1. 総括

【2021 年活動報告】

LMAG、WIE、YP の各 Affinity Group の活動では、仙台 YP との共催による「博士課程のキャリアを語る会」のオンライン開催や MAW2021、Japan SYWL Workshop への現地およびオンライン参加により、他支部との交流を深めた。新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、支部理事会や TPC 主催の技術講演会等多くのイベントはオンラインで開催する一方、ワクチン接種が進んだ 8 月下旬以降は、感染防止対策を徹底した上で、EA イベント「英語で学ぶ先端技術」や WIE シンポジウムを集合およびオンラインのハイブリッド開催、NC イベント「IEEE メンバー資格をアップグレードしよう！」講習会は集合開催とするなど、徐々に開催形態を拡大してイベントを活発に実施し、地域活動の拡大、充実に努めた。このような多様な開催形態を実現するために、関西支部の備品として Web 会議用のスピーカーマイク(拡張マイク3つを含む)および Web カメラを購入し、各種イベントの開催時に活用した。

【2022 年活動計画】

2022 年も、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント実施には厳しい運営状況が継続すると想定される。2021 年に企画・実施した技術講演会、Educational Activities、Committee、Affinity Group における各種イベントのオンライン開催やハイブリッド開催のノウハウを活用・定着させることにより、支部活動の活性化と会員増につながる従来イベントの実施、新規イベントの開催を継続検討する。

そのため、支部理事会・事務局として、Chapter 活動、Student Branch 活動、Affinity Group 活動に対して、より一層、積極的な支援をおこなう。

2. 総会

【2021 年活動報告】

2021 年 2 月 18 日(木)に WebEX によるオンライン形式で、年次総会を開催した。各 Committee、Chapter、Affinity Group から、2020 年の活動実績、2021 年の活動計画を報告。関西支部より 2020 年決算、2021 年予算を報告し承認された。総会中、Young Professionals 賞授賞式、学生研究奨励賞授賞式、新シニア会員への関西支部メダル授与式、新 Fellow の紹介・講演会を実施した。参加者は 60 名。

総会にあわせて、Young Professionals 賞、学生研究奨励賞授賞式、関西支部メダル授与式(新 Senior Member)、新フェロー紹介を実施した。



Young Professionals 賞受賞者



学生研究奨励賞受賞者



関西支部メダル授与式 (新 Senior Members)

【2022 年活動計画】

2022 年は 2 月 22 日 (火) 14:00~17:30 の予定で、定例総会を実施する。

3. 理事会

【2021 年活動報告】

2021 年は 5 回の理事会を開催し、支部運営について審議した。新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、第 1 回から第 4 回の理事会は WebEX によるオンライン開催、第 5 回理事会は、集合およびオンラインのハイブリッド開催(予定)とした。理事会議論においては、特に支部および

支部内組織(Committee、AG等)が主催・共催するイベントの活性化による会員増の取組みについて注力した。時節柄、多くの議決をメール審議によっても実施した。また、2023年の関西支部設立25周年記念イベントの実施に関しても2023/2024年の執行部に引き継ぐべく、可能な範囲内で方向付けの議論を行った。

第1回理事会 1月26日(火)、WebEXによるオンライン開催(参加17名)

2021年活動・予算計画の確認、関西支部総会準備

第2回理事会 2月18日(木)、WebEXによるオンライン開催(参加18名)

関西支部総会準備(段取り、資料の最終確認)

第3回理事会 5月26日(水)、WebEXによるオンライン開催(参加17名)

第1回JC理事会報告

2021年 Young Professionals 賞、学生研究奨励賞の募集について
各種会議、イベントの準備・実施状況共有

第4回理事会 9月16日(木)、WebEXによるオンライン開催(参加15名)

第2回JC理事会報告

2022年 Section 支援申請について

関西支部設立25周年記念イベントの実施について
各種会議、イベントの準備・実施状況共有

第5回理事会 12月27日(月)、大阪工業大学・梅田キャンパス・会議室301・302、および
WebEX オンラインによるハイブリッド開催(予定)

第3回JC理事会報告

2021年会計報告/2022年予算計画

2021年各種表彰者(YP賞、学生研究奨励賞、新シニアメンバー)

各種会議、イベントの準備・実施状況共有

【2022年活動計画】

総会 2022年2月22日

2022年は年間6回の理事会を計画する。

4. 関西支部主催講演会

【2021年活動報告】

Technical Program Committee (TPC)の企画により、年間2回の技術講演会を開催した。2021年は新型コロナウイルス感染症の影響で、見学会は開催できなかった。詳細についてはTPCの項目に記載。

【2021年活動計画】

2022年は年間5回程度の講演会(見学会を含む)を開催し、支部活性化を図る。

5. Region 10 Meeting

【2021 年活動報告】

2021 年 3 月 6 日(土)～7 日(日)にオンライン開催された Region 10 Meeting に、関西支部より畑 Chair、松居 Vice Chair が参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努めた。

【2022 年活動計画】

2022 年 2 月 26 日～27 日の R10 Meeting(Bangalore, India + Web にて実施)に、関西支部より例年通り参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努める。

6. MAW / Japan SYWL Workshop

【2021 年活動報告】

2021 年 10 月 30・31 日に北海道大学で開催された、MAW2021、Japan SYWL Workshop および付帯イベントに、関西支部より AG メンバー 3 名、SB メンバー 1 名、計 4 名を派遣した。それぞれに他支部メンバーとの交流等により、当該イベントを有意義に経験・活用された旨の報告をいただいた。

【2022 年活動計画】

2022 年も、継続して活動活性化を図るため、Student Branch/YP/WIE/LMAG について上位組織で開催される本イベント活動への参加を積極的に支援する。

7. 協賛会議等

【2021 年活動報告】

- ・フロンティアサイエンスシンポジウム 2021
 - ICT 社会の未来を拓くサイエンス&テクノロジー最前線 —
 - 主催： 国立研究開発法人 情報通信研究機構 未来 ICT 研究所
 - 日時： 2021 年 5 月 28 日(金)
 - 場所： オンライン開催
- ・第 8 回 電子デバイスフォーラム京都
 - ～異次元に拡大する半導体/電子部品の未来像を探る!!～
 - 主催： 一般社団法人日本電子デバイス産業協会(NEDIA)
 - 日時： 2021 年 10 月 28 日(木)
 - 場所： 京都市リサーチパーク(KRP)
- ・10th IEEE CPMT Symposium Japan (ICSJ2021)
 - 主催： IEEE EPS
 - 日時： 2021 年 11 月 10 日(水) - 12 日(金)
 - 場所： 京都大学百周年時計台記念館
- ・令和 3 年 電気関係学会関西連合大会
 - 主催： 電気学会 関西支部
 - 電子情報通信学会 関西支部
 - 映像情報メディア学会 関西支部

電気設備学会 関西支部

日時: 2021年11月10日(水) - 12日(金)

場所: 同志社大学 京田辺キャンパス(オンライン開催)

8. 情報発信

【2021年活動報告】

関西支部 Web ページ

下記ホームページで、技術講演会や AG による活性化イベントの案内等を情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、活性化イベント、各賞応募等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れた。

R10 Newsletter

LMAG を中心に R10 Newsletter への投稿を進めるとともに、“2021 REGION 10 BEST MEMBERSHIP RETENTION LARGE SECTION AWARD”受賞に伴う支部紹介記事が掲載された。

【2022年活動計画】

関西支部 Web ページ

関西支部のホームページで、各種情報を発信して、会員メリットの向上に努める。

Newsletter のタイムリーな発信に努める。

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、活性化イベント、各賞応募等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れる。

オンライン開催イベントは、関西支部会員に限らず、本全国の会員を対象に広く周知を図る。

R10 Newsletter

R10 Newsletter への投稿をさらに積極的に進め、関西支部活動について R10 内への英語による周知を図る。

【Newsletter の発行】

No.39(2021年3月19日発行): 総会の様子、YP 賞・学生研究奨励賞の受賞者紹介、新 Senior メンバー・新 Fellow の紹介、技術講演会等の開催情報を掲載。

No.40(2021年9月21日発行): YP 賞、学生研究奨励賞募集のお知らせ、技術講演会、WIE シンポジウム、博士課程のキャリアを語る会の開催情報を掲載。

2022年も2回(No.41:2022年3月、No.42:2022年9月)の発行を予定している。

9. 各 Committee/Affinity Group からの報告

a. Membership Development Committee

【2021 年活動報告】

- ・ 2021 年は、第 1 回 6 月 16 日、第 2 回を 12 月 10 日に、MDC&SAC&YP Joint Workshop を開催した。新型コロナウイルス感染症の現状を鑑み、いずれもオンラインによるウェブ開催とした。MDC、SAC、YP に参加している各委員の組織等を通じて IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズにするとともに、正会員からシニアへの移行を推進した。また、SAC や YP と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。結果として、関西支部が IEEE Region 10 Best Membership Retention Large Section Award を受賞した。ご協力を頂いた皆様に感謝いたします。
- ・ その他の主な活動として、通常会員の会員数の減少を食い止めるため、Renew のし忘れを防ぐことを目的に、5 月と 10 月に Renew 案内メールを送信して更新を促した。また、シニアメンバーへの昇格申請がスムーズとなるよう申請のための支援を継続した。さらに、IEEE Computer Society Kansai Chapter 役員メンバーを対象にシニアメンバー昇格の枠組みを試行的に構築した。昇格に向けた情報交換等を行い、これまでに役員 5 名中 4 名が昇格した。
- ・ 2021 年 12 月 31 日で、会員数は 2,134 名であり、過去 10 年間で最も少ない水準であった。特に学生会員の減少が顕著であり、これは国内研究会、国際会議がすべてオンライン開催で行われているため、新たな IEEE 入会のメリットの訴求が難しくなっているためと思われる。また、2019 年から開始している国内研究会、技術講演会における広報パンフレットおよびノベルティグッズを配布する等の会員勧誘活動は、オンライン開催のため実施できていない。

【2022 年活動計画】

2022 年も継続して、会員増に向けた活動を行う。これまでと同様に MDC/SAC/YP と連携しながら、特に Senior member と学生を中心とする若手の新規会員の増加に向けた活動を行う。

- ・ MDC/SAC/YP Joint Workshop を年 2 回(5 月頃、11 月頃)開催し、Committee 間の情報交換、連携を通して会員数増に向けた活動を行う。
- ・ アップグレードの勧誘と申請サポートとを通して、シニアメンバーの一層の増加を目指す。IEEE Computer Society Kansai Chapter の取り組みを JC MD 会議等を通じて他 Committee、Chapter に展開し、昇格の道筋を作る。
- ・ 学会や研究会における広報活動 (IEEE のポスターやパンフレットの配布等) により、IEEE への入会勧誘を行う。しかし、オンライン開催によりこれが困難である場合は、ポスター・パンフレットを MDC 役員の所属機関に配布することで広報活動を実施する。
- ・ 年 2 回の Renew 促進のメールを送信して Renew 忘れによる会員減を防止する。
- ・ IEEE の企業会員増に向けて、企業の業績に関する表彰が多く認められている IEEE Milestone に関する講演会を開催する(1/25 予定)。

b. Nominations Committee

【2021 年活動報告】

2021 年 3 月 1 日締め切りの 2021 年 Fellow Nomination に際し、関西支部から数名の Fellow 推薦を行なった。その結果、3 名の Fellow 昇格となった。

2021 年 11 月 25 日、関西大学梅田キャンパスにおいて、「IEEE メンバー資格をアップグレードしよう」を実施した。10 名の参加であった。

【2022 年活動計画】

2022 年は、2022 年 3 月 1 日締め切りの 2021 年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow に対し新 Fellow の推薦を依頼するとともに、現 Senior に対しても Nominee となることを勧める。また、「IEEE 関西支部 Fellow Club」(仮称)を創設し、現 Fellow から積極的に推薦できる枠組みを構築する。更に、IEEE メンバー資格昇格のための勉強会・講演会を実施する。

c. Student Activities Committee

【2021 年活動報告】

SAC では、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行った。

- (1) 既存 7 大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学)の Student Branch (SB)を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、SB 間の情報交換の促進、等の活動を行った。
- (2) MDC と SAC、YP と合同で Workshop をオンラインで開催(7 月, 12 月)し、連携して会員の増強、YP 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (3) 各 Student Branch の Chair により Student Branch Chair Meeting をオンラインにて開催した(6 月 27 日)。前期の活動状況や今後の活動計画について議論を行うとともに、互いに交流を深めた。
- (4) SB 研究交流会を 9 月 16 日にオンラインにて開催した。PowerPoint を用いた発表形式で行い、互いの研究内容について議論を行った。
- (5) SB 全体のイベントとして、LMAG と共催で立命館大学 English Presentation Competition を 10 月 23 日にハイブリッド形式(オンライン+対面)にて開催した。
- (6) SB と LMAG との共同企画として計画しているブレインストーミング大会は、今年は兵庫県立大学が主催であるが、最少催行人数に至らず開催されなかった。
- (7) AC と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。
- (8) 12 月 20 日に同志社大学の主催で、年末交流会(引継ぎ会)をオンライン実施し、各 SB の活動状況の報告および次年度の活動計画について議論した。

【2022 年活動計画】

- (1) Student Branch(SB)の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、SB の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学各 Branch からの支援で、その他の大学、高専を対象に新 SB の設立を目指す。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 SB の協力により、SB が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 SB を中心に、交流会を引き続き開催し、SB 間の交流を深める。さらに、SB Chair ミーティングを開催し、活動の活発化を促すとともに、SB 間の協力体制を強化することを目指す。また、LMAG、YP、WIE の各 AG と協力してさまざまなイベントを実施する。さらに、各企画の学生会員増への貢献度を精査する必要がある。

(3) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を(AC と共同により)継続して企画し、優れた英文論文を公表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

(4) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee

【2021 年活動報告】

2021 年は、以下の表に示す計 2 回の技術講演会を実施した。

	開催日	場 所	講 演 者	参加者数 (IEEE 会員)	共催・協賛組織名
第 113 回	2021 年 9 月 2 日	テーマ: 広がる宇宙ビジネスの現状と知財の課題			
		WebEX によるオン ライン形式	内藤浩樹教授 (大阪工業大学大学院知的 財産研究科、JAXA 研究開 発部門研究戦略部参与)	56(36)	—
第 114 回	2021 年 10 月 5 日	テーマ: 国際標準は新たな技術を創り出す ～若手技術者の最先端でグローバルな活躍の場～			
		WebEX によるオン ライン形式	田邊信二氏 (元)三菱電機株式会社、 大阪工業大学非常勤講師)	39 (21)	—

当初は人的交流を加速する期待値から、対面あるいはオンラインとの併用によるハイブリッド形式での開催を模索してきたが、コロナ禍が長期化したため、講演会は全てオンライン形式で開催

した。同時に他団体との共催の議論が困難な状況の下、講演会は全て TPC の単独開催となり、開催回数は当初計画より少ない 2 回となった。一方、IEEE Japan Chapter を通して講演会案内を配信頂くことで、関西支部に加え関東、四国、九州支部から多くの参加者があり、関西支部の活動を全国にアピールすることができた。

第 113 回講演会では内藤教授より、衛星からのデータに基づいて宇宙を利用するビジネスの現状と、それに係る知的財産の課題および展望について、また第 114 回講演会では田邊氏から、IEEE 等でのご経験を元に、新たな技術を生み出す標準化について、その魅力や今後の方向性をご講演頂いた。両講演いずれにおいても活発な質疑応答があり、参加者の知見・視野の拡大につながった。

【2022 年活動計画】

2022 年も引き続き、技術講演会の開催を主たる活動とする。コロナ禍の状況も見ながら、オンラインあるいは対面併用のハイブリッド形式で、年 5 回程度の講演会を企画・開催することを目指す。また、関西支部 LMAG 等、他団体との共催の議論を積極的に進める。

2022 年は既に、中川聰氏(トライポッド・デザイン株式会社 CEO、名古屋大学医学部 客員教授)による第 115 回講演会(1 月 13 日)を開催し、電気化学の新たな領域と期待される超小集電が拓く未来に関するご講演を頂いた。

今後も、特定の Chapter に属さないような横断的分野、あるいはグローバル化に対応した市場・技術の方向性に関する内容の講演会を、積極的に企画・開催する。

e. Awards Committee

【2021 年活動報告】

昨年に引き続き、学生会員ならびに若手会員を対象として、「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」の募集を行った。本年度は、6 月に募集を開始し、10 月 8 日に応募を締め切った。その後、応募者の支援資料を 10 月 29 日までに受理し、当委員会による選定の後、12 月 27 日の支部理事会において「大学や研究所の若手会員」部門で 1 名の受賞者を決定した。

また、「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、これまでと同様に継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。Young Professionals 賞と同様に、6 月に募集を開始し、10 月 8 日を応募期限として応募者を募った。当委員会と SAC による選定の後、12 月 27 日の支部理事会において 6 名の受賞者を決定した。

【2022 年活動計画】

2022 年は、従来からの厳正な選考過程の実践を継続するとともに、これまで以上に応募者の増加に努める。「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」ならびに「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」を、それぞれ若手会員と学生会員の増強施策として位置づけ、関西支部が関与する種々の研究集会ならびにメーリングリストにおいて、賞の存在をより積極的に周知する。YP 賞に関しては、SAC とも協調し、Student Branch での活動等 IEEE への貢献が顕著な学生会員に加え、企業の若手会員に同賞への応募を積極的に呼びかける。

f. Chapter Operations Committee

【2021 年活動報告】

現存 Chapter の活動支援を行っている。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して進めている本部へのオンライン書類提出、Chapter 支援費、国際会議実施での MOU 締結手続き、ソサイエティ別 Section 所属会員数の提供、petition 作成支援等である。計 2 回の JC COC 参加を通じて関連最新情報の把握に努めた。特に、各 Chapter, ならびに COC 事務局の事務手続きの利便性と効率化を目的に、2021 年から Chapter 支援費申請, ならびに Award 登録申請をクラウド上で運用するオンライン申請システムが導入され、オンラインフォームの使用マニュアルも準備されている。また、国際会議 Sponsorship の承認手続きについての手順が改訂されたことを確認した。重要議題の一つである Chapter 支援費の Section 配下への移行について、継続検討されることを確認した。

【2022 年活動計画】

2022 年は、引き続き関西支部内各 Chapter 活動の活性化に努める。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して、各 Chapter との情報共有を綿密に行う。特に、上記オンライン申請システムの広報・サポートを行うとともに、継続検討中の Chapter 支援費の Section 配下への移行など、Japan Council の運用制度の改訂に関する動向を引き続き把握し、迅速なフィードバックに努める。また、Kansai Section 下の各 Chapter に対し、MOU 締結などに関連する手続を浸透させるとともに、改善事項などがあればその対応を図る。関西 Chapter のホームページの積極更新を促進する。

g. Life Members Affinity Group

【2021 年活動報告】

活動 9 年目として LMAG 活動をいっそう活性化させたかったが、前年同様に、COVID-19 の感染拡大により対面形態の現地講演会は開催できなかった。役員会、新 LM 歓迎懇親会、LMAG サロンはオンライン形態で開催した。

役員会は 4 回開催した。2/8 (月) に、新任役員 2 名が加わった今年度初の役員会を開催した。6/10 (水) に、第 2 回オンライン役員会を開催し、COVID-19 感染対策に対応するため年度途中での活動計画の見直しを行った。9/10 (金) の第 3 回では、4 月実施分に続く次の LMAG サロンの実施について論議し、「サイバーセキュリティ」をテーマにすることを決めた。12/22 (水) に年度最後の役員会を開催し、今年の活動を振り返るとともに、来年度の活動計画について審議した。

新 LM 歓迎懇親会は 3/12 (金) に開催し、新しく LM になった方々との親交を深めた。



2016年に新たな活動として開始した気さくな LMAG サロンを 2019 年まで対面形態で継続してきたが、昨年は開催できず、今年初めてオンラインで開催した。4/20（火）に 13 名の参加者を得て、“老舗学の紹介”というタイトルで前川洋一郎氏（高知工科大学客員教授、元 パナソニック役員）に講演いただいた。

他組織との連携として、SB との連携では、SB 英語プレゼンテーション大会を支援しこの大会の優秀賞の一つとして設けている「LMAG Kansai Award」（表彰状及び副賞賞金）の授与を行なった。1/9（土）にオンライン開催された同大会は 2020 年度分が遅れて開催されたもので、LMAG 賞該当者は無かった。10/23（土）にハイブリッド形態で開催された今年度分の同大会には、LMAG 関西から 2 名が審査員および聴講者として参加し、LMAG 賞を該当者 1 名に授与した。WIE との連携では、9/26（土）に開催された WIE シンポジウムに、今後の連携を深めていくことも考慮し LMAG 関西から役員も参加した。

8/21（土）の関西支部主催第 1 回 EA (Educational Activities) イベントに YP と共に共催で参加した。開催テーマは若手研究者や高校生に対する英語と先端技術の啓蒙で、77 名の参加者があった。

関西地域の外では、2/23（火）と 9/18（土）、11/20（土）に開催された R10 LMAG meet および 7/25（日）に開催された R10 LMC (Life Members Committee) meet に LMAG Chair がオンライン参加した。



10/30 (土) に札幌で開催された MAW (Metropolitan Area Workshop) および翌日午後と同じ会場で開催された LMAG 札幌設立記念イベントに LMAG Chair が対面参加した。また、翌日午前の MAW 付帯イベントである JAPAN SYWL Workshop 2021 in 札幌 は、今年から関西をはじめ国内各支部の全 LMAG が共催に加わっており、これにも参加した。

LMAG Kansai Newsletter については、英語が公用語の学会として LMAG 関西の活動をアジア (R10) や世界に情報発信していくため、2018 年から英語版にて発行を続けており、今年度は 12 月に発行した。

LMAG 関西の Web ページについては英語ページの掲載内容を更新し少し充実させた。

【2022 年活動計画】

2022 年に設立 10 周年を迎えるので、記念イベントの開催を計画したい。またオンラインイベントを含めて活動をより活発化させたい。関西支部 TPC、WIE などと連携して数回の講演会 (現地講演会も含む) も計画する。LMAG サロンの活動を発展させていくことも大きな目標であり、オンライン形態を活用して他支部 LMAG との地域の制約を超えた連携を図りつつ、広い地域の参加者を募るとともに、より広範なテーマに取り組む活発なサロンを目指したい。SB や YP、WIE、他支部 LMAG との連携も積極的に進める。具体的には、連携先の諸活動への LMAG メンバーの豊かな経験を活かした参加やその共同開催、逆に LMAG 活動への連携先からの参加など、幅広い視点から双方向の交流と連携を深める。

これらの活動の計画や成果を「LMAG Kansai Newsletter」にて公開し、広く参加の呼び掛けをするとともに活動報告をする。

h. WIE Affinity Group

【2021 年活動報告】

(1) Kansai WIE シンポジウム

2021 年もひきつづき、新型コロナウイルスの影響が予想されたため、毎年秋開催の WIE シンポジウムについても、開催方法を検討した結果、どのような状況でも開催できるよう、オンラインと現地開催のハイブリッド方式での開催をきめ、2021 年 9 月 27 日(土)にオンラインと大阪工業大学梅田キャンパスで「IEEE Kansai WIE シンポジウム 2021 – Enjoy Science, Technology

and Your Life!」を開催した。IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group, IEEE Kansai Section Educational Activities, IEEE Student Branch at Osaka University, IEEE Student Branch at University of Hyogo, IEEE Student Branch at Ritsumeikan University, IEEE Student Branch at Kyoto University, IEEE Student Branch at Kansai University, IEEE Student Branch at Doshisha University, IEEE Student Branch at Nara Institute of Science and Technology, Osaka Institute of Technology, IEICE Kansai Section.に共催いただき、特に広報に関して協力し準備を行った。シンポジウム前半では、3名の女性技術者・研究者による以下の講演が行われた。

-『IBM での女性研究者として働くこと (Working as a female researcher at IBM Research)』

IBM 東京基礎研究所 - 吉濱佐知子 氏 (IBM Research - Dr. Sachiko Yoshihama)

-『大学教員から NASA への転職 (Career Change from University to NASA)』

NASA ジェット推進研究所 岩下 友美 氏 (NASA Jet Propulsion Laboratory - Dr. Yumi Iwashita)

-『枠のない私のウェアラブルコンピューティング研究生活 (Thinking Outside the Box: My Research Life in Wearable Computing)』

神戸大学 大学院工学研究科電気電子工学専攻 大西 鮎美 氏 (Department of Electrical and Electronic Engineering, Graduate School of Engineering, Kobe University Dr. Ayumi Ohnishi)

シンポジウムの後半は、現地参加の方々とオンライン参加の方々に分けて、グループトークを実施した。テーマは「科学とテクノロジーと人生を楽しむためのヒント」。オンライン参加の方々は Zoom のブレイクアウトルームを活用して少人数のグループごとに意見を交換した。

シンポジウムへの参加者は 54 名であった。今回はハイブリッド開催としたこと、関西の主な大学の男女参画推進室への案内を行ったこともあり、参加者数は昨年とよりも増えた。本シンポジウムは WIE AG の年間活動の軸となるイベントとして、開催形態は問わずに、「関西の」女性技術者・研究者、理系の女子大学院生・学部生、そして理系進路選択を考える女子高校生のエンパワメントを目的として継続していく予定である。



WIE シンポジウム 2021 参加者集合

(2) 役員会

(1)2021年03月24日 2021年度第1回委員会

オンライン開催、

- ・2021年、2022年役員の紹介、役割確認
- ・2021年度シンポジウムの素案検討

(2)2021年06月14日 2021年度第2回委員会

オンライン開催

- ・2021年度シンポジウム の内容検討

(3)2021年08月25日 2021年度第3回委員会

オンライン開催

- ・2021年度シンポジウム準備
- ・Fund 状況報告

(4)2021年09月20日 2021年度第4回委員会

オンライン開催

- ・2021年度シンポジウム準備

(5)2021年09月25日 2021年度第5回委員会

オンライン・現地ハイブリッド開催

- ・2021年度シンポジウム直前打ち合わせ

(3) 協賛およびその他の活動

- ・2021年8月21日 関西支部 EA 英語で学ぶ先端技術
- ・2021年9月25日 IEEE YP 勉強会シリーズ第2回: Overleaf 勉強会
- ・2021年10月31日 IEEE JAPAN SYWL WORKSHOP IN SAPPORO (AND ONLINE) 2021
- ・2021年11月6日 Women in Engineering 2021
- ・同志社大学 世界に羽ばたく「科学するガールズ」養成プログラム

【2022年活動計画】

2022年は、WIE AG 設立9周年となる。下記施策により、10周年にむけて活動のさらなる活発化を図る。

- ・ Kansai WIE の活動を紹介するパンフレットを作成し、活動の広報を強化する。
- ・ WIE 活動に賛同するメンバーを積極的に募り、運営体制を強化する。
- ・ 女性研究者・技術者を応援するためのシンポジウムを開催する。理系の女子大学院生や学部生の近い未来のキャリア支援、さらに理系進路を考える高校生への進路選択の一助となるような内容も含めることで、参加者層を拡張する。
- ・ Student Branch, YP, LMAG, JC WIE, 他学会の女性支援関連活動などと連携しながら、関西での WIE 活動を推進する。

i. Young Professionals Affinity Group

【2021 年活動報告】

2021 年は、YP 活動の「見える化」を実現するために、既存の SNS プラットフォームを用いた活動報告の場を立ち上げた。

(URL) <https://www.facebook.com/groups/yp.kansai.ieee>

昨年度の報告以上に、WIE、SAC、MDC、SB、Society と連携したイベントを実施し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進するためのイベントを企画、共催することができた。世界的なオンライン化の動向を活かして、関西地区に縛られることなく東京 YP、名古屋 YP、仙台 YP、札幌 YP や東北大 SB と密接な連携を行った。関西支部の WIE、SAC、MDC、EAC、SB および関西チャプターの CASS、CS とも連携し、以下の活動を行った。

- 1) (共催) Sendai YP Android Studio 勉強会 (5/22)
- 2) (共催) MDC/SAC/YP Joint WS (7/12、12/10)
- 3) (共催) EAC イベント「英語で学ぶ先端技術」(8/21)
- 4) (主催) 博士課程のキャリアについて語る会 (9/11) : 詳細は以下を参照。
- 5) (主催) IEEE YP 勉強会シリーズ第 2 回 : Overleaf (LaTeX) 勉強会 (9/25) : 詳細は以下を参照。
- 6) (共催) 関西 WIE シンポジウム (9/25)
- 7) (共催) IEEE SYWL (10/31)
- 8) (協賛) The 18th IEEE TOWERS (11/13)
- 9) (共催) 東京支部 EAC ウェビナー「5G and beyond-- The insider story」(12/19)
- 10) Kansai YP AG meeting (定期開催)

関西支部 YP 主催イベント「博士課程のキャリアについて語る会」

講演会の概要：

現役の博士後期課程の学生，および博士学位取得後に大学や企業に就職された方々にご講演いただき，博士前期課程の学生が博士後期課程に進学する動機付けを狙いとする．また，博士後期課程への進学者は，学会発表の機会も多くなり，IEEE への会員登録をはじめ，IEEE の参加継続につながることを想定される．それにより，YP の活性化につながることを期待されるイベントである．

日時： 2021 年 9 月 11 日（土）

場所： オンライン開催（Zoom/Gather 使用）

主催： IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group

共催： IEEE Sendai/Sapporo/Tokyo Section Young Professionals Affinity Groups

IEEE Kansai Section Membership Development Committee

IEEE Student Branch at Kyoto/Tohoku/Ritsumeikan Universities

IEEE Circuits and Systems Society Kansai Chapter

IEEE Computer Society Kansai Chapter

後援： IEEE Kansai Section Educational Activities Committee

IEEE Region 10

IEEE Region 10 Young Professionals

参加者：参加登録人数 42 人

講演内容：

ご講演 1「博士後期課程への進学について」

橋田 紘明 様（東北大学）

ご講演 2「博士後期課程修了後、アカデミックポジションに就職するキャリアについて」

増田 豊 先生（名古屋大学）

ご講演 3「博士前期課程修了後、企業への就職と博士後期課程への進学について」

田中 輝明 様（三菱電機）

MDC ご講演「IEEE 入会のススメ」

佐藤 高史 先生（関西 MDC）

YP 講演「IEEE YP 入会のススメ」

塩見 YP Chair

その後、グループディスカッションおよびオンライン懇談会を実施。

IEEE R-10 EAC/YP による資金援助：

R-10 EAC's Call for Proposal For "Reaching Local Initiatives" (US\$ 147)

R-10 Young Professionals Student-YP Joint Activity Fund 2021 (US\$ 250)

「IEEE YP 勉強会シリーズ第 2 回：Overleaf (LaTeX) 勉強会」

イベントの概要：

文書作成システム LaTeX を利用した文書作成ツールである Overleaf の勉強会を開催した。Overleaf はブラウザで利用でき、複雑な環境構築が必要なく、オンラインでの共有が簡単で、IEEE 会員であれば最高プランを無料で利用できる。Overleaf の基本機能と LaTeX の文法を講義形式で紹介し、IEEE 論文のテンプレートをチュートリアル形式で編集する演習を行った。

日時: 2021 年 9 月 25 日(土) 9:30-11:30

場所: オンライン (Zoom ウェビナー)

共催: IEEE Kansai/Sendai/Tokyo Section Young Professionals Affinity Groups

IEEE Kansai Section Women in Engineering Affinity Group

IEEE Student Branch at Ritsumeikan University

後援: IEEE Sendai Section Women in Engineering Affinity Group

参加者 (登録者数)：

90 名

【2022 年活動計画】

2022 年も引き続き WIE、SAC、MDC、SB、Society と連携したイベントを実施し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進していく。世界的なオンライン化の流れを活用し、関西支部外の Committee との連携も強める。関西支部 YP AG の Web ページを新設する等、関西 YP のプレゼンス強化を目指す。

IEEE 関西支部会員の増加は重要な課題であると考えており、特に YP となる大学院学生と新規若手会員の増加に向けて各 Committee と協力して対策を検討する。具体的には、SB との連携イベントを新規に企画し、学生や若手に IEEE 会員のメリットに触れる機会を提供することで会員数獲得を目指す。

j. Educational Activities

【2021 年活動報告】

一昨年 2020 年後半に JC より各支部から担当を出すよう依頼があり、田邊 Past TPC Chair が新たに関西支部における EA Chair に選出され活動を開始した。

EA(Educational Activities)は、IEEE 本部のある米国では以前から活発に活動をしており、IEEE 会員、会員以外の IEEE 技術に関心のある一般、高校生などに向け、関連技術教材の作成、無料の技術講演会、ワークショップなどを開催する教育的啓蒙活動を行っている。米国で作成した教材は、非常によく出来たものであるが、使用言語が英語であり、自動翻訳では十分に意味が取れない難点があるため日本語化はされていない。

そのため、Resion 10 の中でもインドなども含め、ローカルの言語での EA 活動が呼びかけられており、昨年 2021 年より、福田 Past IEEE President の強い働き掛けもあり、JC 取りまとめで活動を興した。

とはいえ IEEE の特徴は、最先端の技術を英語で学べるところにあり、「英語で学ぶ先端技術」を大テーマとして、高校生、大学生、若手エンジニアが、直に英語で講演や文献に触れ、英語で技術を理解し、技術ディスカッションが出来ることをサポートしていく。

以下、昨年 2021 年 8 月 21 日(土)にハイブリッド形式(現地:大阪工大梅田キャンパス)で開催した「第 1 回 IEEE 関西支部 EA イベント」の内容を紹介する。

- 13:00-13:15 あいさつ、概要説明など
- 第1部: 13:15-14:15 講演:
「理系じゃないワタシでも技術英語が訳せるワケ～会議通訳者の勉強方法」
Acquiring Technical English – how does a non-STEM interpreter translate technical English?
講演者:佐藤志緒さん (技術会議の通訳者)



- 会議通訳者が技術英語の勉強方法を伝授します！
 - なぜ通訳者の道に？
 - バイリンガルは帰国子女の専売特許じゃない
 - ワタシ、理系じゃないんですけど？
 - 技術英語の勉強はオモシロイ
 - Give it a try!

- 第2部: 14:30-16:40 ディスカッション:AI の将来、AI の倫理



IEEE のビデオ教材(ICRA 2019 Plenary I, Professor Yoshua Bengio) を使用

- 16:40-17:00 質疑、ラップアップ

【2022 年活動計画】

本年度も8月に EA イベント開催を予定している。大テーマとして「英語で学ぶ先端技術」は引き続き維持し、高校生、大学生、若手店ジニアが、英語で先端技術を学ぶ機会を作り、その能力向上をサポートしていく。

関西支部 EA として独自に教材を作成することはマンパワーもあり行わない。高校生などにとっても、技術を英語で学ぶことは有益であり、本部の英語教材で内容的によく出来ているものは、積極的に紹介していく。

EA 単独ではマンパワー不足であり、TPC, WIE, LMAG, YP などの協力をお願いし、JC、他支部とも協力し、活動を盛り上げていく。会員各位のご協力をおお願いすると同時に、活動に対する提案をお待ちしている。

10. Chapter 活動

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

【2021 年活動報告】

2021年もコロナの影響で、すべてのイベントが現地での開催はできず、Zoomオンラインでの開催となったが、以下のようなイベントに多くの参加者を得て、活発な活動ができた。

- ・ 昨年からスタートした電子デバイス関連の企業活性化のためのラウンドテーブルを 3/29 と 7/28 の2回開催した。1回目は EDS 委員3名から、これまでの研究・開発成果とこれからについて講演してもらい、16名の委員が参加した。2回目は 電子デバイスの関連企業としてシルバコジャパンの渡辺氏に TCAD について、また長瀬産業の高橋氏にパッケージング技術についての講演をして頂き、委員17名が参加した。
- ・ 6/14 に技術講演会を実施し、富士通の多木氏から 5G/6G の通信技術について、また大阪大学の関谷先生から伸縮性フレキシブルエレクトロニクスについて講演をいただいた。教育の一環として学生が多数参加して 149 名の聴講があった。また 6/21 に EDS 関西チャプターの渡辺チェアによる学生のための技術講演会があり、62 名の参加があった。
- ・ 7/30 に SSCS との共催で、VLSI Symposium 報告会があり。147 名の参加があった。
- ・ 9/28 に第 21 回関西コロキウム電子デバイスワークショップを開催した。これは過去一年(2020 年 4 月～2021年 3 月)の主要 Conference や論文誌の中から、関西に関係のある技術者による優れた論文を選定し、著者本人に講演してもらうもので、9件の論文を選定し、Best Paper Award と Student Award のそれぞれ1件を選出した。参加者は 51 名であった。
- ・ 11/18-19 の 2 日間で The International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK2021)を開催した。昨年はコロナのため Satellite Event として Poster セッションのみであったが、今年は KeyNote/招待講演 14 件、レギュラー講演 10 件、ポスタープレゼン 17 件と例年並みの規模で開催できた。レギュラー講演から Best Paper Award が1件、ポスタープレゼンから Student Award が 3 件選ばれた。175名の参加者であった。

【2022 年活動計画】

2022 年もコロナの状況を見ながら、引き続きオンラインまたは現地開催、もしくは併用での活動を展開する。特に若手研究者を主な対象とした学会や講演会の開催を通じて、質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。具体的には以下のような計画を予定している。

- ・ 日程は未定であるが、前半に主に若手研究者・学生を対象に電子デバイスの材料からデバイス特性まで、それらの分野で卓越した成果を上げている研究者を招待して講演いただく技術講演会・DL を 1-2 回開催予定である。また昨年から引き続き、半導体産業の活性化のため企業メンバーを中心にラウンドテーブルを 1-2 回開催予定である。
- ・ 後半には 9 月末に"第 22 回関西コロキウム電子デバイスワークショップ"を開催する。講

師には国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂く予定である。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。

- 11月後半に国際会議"20th International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2022)"を龍谷大学アバンティ響都ホールもしくはオンラインでの開催を予定している。例年通り、招待講演(Keynote および Invited)、一般講演およびポスター講演(ショートプレゼンテーション付き)を実施する。幅広い分野で、最先端の話題を講演頂き、また学生や若手研究者を中心の発表により、会員の活発な技術交流と教育の場を提供する。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

【2021年活動報告】

3月1日にオンラインで開催された、集積回路研究会（主催：電子情報通信学会 集積回路研究会）に協賛した。参加人数は8名であった。

3月17日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で技術セミナー（ISSCC 2021 国内報告会）をオンラインで開催した。全11件の講演があり、参加人数は270名であった。

4月12日～13日にオンラインで開催された、集積回路研究会（主催：電子情報通信学会 集積回路研究会）に協賛した。参加人数は42名であった。

5月10～11日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、“LSI とシステムのワークショップ 2021”をオンラインで開催した。参加人数は811名であった。

7月30日に、IEEE EDS Kansai Chapter、IEEE SSCS Japan Chapter、IEEE EDS Japan Chapter と共催で技術セミナー（VLSI Symposia 2021 国内報告会）をオンラインで開催した。全17件の講演があり、参加人数は147名であった。

8月17日～18日にオンラインで開催された、集積回路研究会（主催：電子情報通信学会 集積回路研究会）に協賛した。参加人数は52名であった。

9月2日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、アクセラレーション技術発表討論会をオンラインで開催した。参加人数は、86名であった。

9月24日に、東京大学 d.lab-VDEC と共催で d.lab-VDEC Designer's Forum 2021 をオンラインで開催した。参加人数は、54名であった。

10月19日にオンラインで開催された、集積回路研究会（主催：電子情報通信学会 集積回路研究会）に協賛した。参加人数は73名であった。

11月22日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で、松澤 昭 先生（(株)テックイデア代表取締役社長、東京工業大学名誉教授）の Donald O. Pederson Solid-State Circuits Award 受賞決定を記念した講演会を京都工芸繊維大学およびオンラインで開催した。池田 誠 教授（東京大学）、松澤 昭先生をお招きして、池田 誠 教授には”ハードウェアセキュリティと暗

号ハードウェア設計”という題目で、松澤 昭 先生には“集積回路設計 40 年を振り返って”という題目で技術セミナーおよび受賞記念講演会を実施した。出席者は 122 名であった。



松澤昭先生 Donald O. Pederson Solid-State Circuits Award 受賞記念講演集合写真

【2022 年活動計画】

2022 年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。対面でのイベント開催が困難であることが予想されるため、オンラインイベントを積極的に開催するとともに関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、協賛金と Award を出し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

【2021 年活動報告】

2021 年は、2 件の技術講演会を主催した。また、1 件の国内イベントを共催し、1 件の国内学会に協賛した。技術講演会はいずれもオンライン開催としたが、地理的な制約がないためか、予想を超えた参加者数となり盛況となった。質疑応答も活発に行われ、講演者及び参加者にとって有意義な講演会となったと考えられる。主催・共催・協賛イベントの詳細は以下の通りである。

9 月 11 日に IEEE Kansai Young Professionals Affinity Group 主催の「第 3 回 博士課程のキャリアについて語る会」(オンライン開催)を共催した。

11 月 12 日に東京工業大学の原祐子氏に依頼し、「次世代 IoT に向けた低電力プロセッサ SubRISC+ (Low-power embedded processor SubRISC+ towards next-generation IoT)」という題目の技術講演会を主催した。(参加者 64 名、うち会員 39 名)

11 月 13 日～14 日にオンライン形式にて開催された、第 64 回自動制御連合講演会(主催: システム制御情報学会ほか)に協賛した。

12 月 20 日に岡山理科大学の笠展幸氏に依頼し、「電気自動車主機モータ制御ユニット用コントローラの研究開発 (Research and Development of automotive traction inverter as motor control unit)」という題目の技術講演会を主催した。(参加者 51 名、うち会員 37 名)

以上、最新技術動向に関する技術講演会を開催するとともに、IEEE Kansai Young Professionals Affinity Group との共催、他学会主催の国内大会の協賛も実施し、参加者との交流を通じた CASS 関西チャプターの活動のアピールと会員の獲得に努めた。なお、実施した講演会や今後の予定については、詳細を後述の URL に掲載している。

【2022 年活動計画】

2022 年は、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、学生や若手研究者・技術者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することも検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢献するとともに会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cas/>

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

【2021 年活動報告】

昨年に引き続き、(1) 関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2) 各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動を進めた。2021 年は、主催技術会議 4 件を実施した。

【主催技術会議】

1. 4 月 16 日に、城崎国際アートセンター・オンラインのハイブリット形式にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催した。講演者として海老原 聡 氏（大阪電気通信大学）をお招きし、「地中物体の 3 次元位置推定のための指向性ボアホールレーダ」と題してご講演いただいた。
2. 9 月 9 日に、オンライン形式にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催した。講演者として今井 一雅 氏（高知工業高等専門学校）をお招きし、「木星電波観測技術実証衛星 KOSEN-1」と題してご講演いただいた。
3. 11 月 20 日に、オンライン形式にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催した。講師として新納 和樹 氏（京都大学）をお招きし、「モーメント法における Calderon の前処理」と題してご講演いただいた。参加者総数は 25 名であった。
4. 12 月 18 日に、オンライン形式にて、IEEE MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を共同主催した。講演者として前川 拓也 氏（株式会社村田製作所）、中谷 圭吾 氏（三菱電機株式会社）、平川 昂 氏（ソフトバンク株式会社）をお招きし、それぞれ「60/79 GHz 帯ミリ波レーダに関する開発紹介」、「ミリ波帯 GaN 増幅器の技術紹介」、「高周波用整流回路の基礎」と題してご講演いただいた。また、各大学等からのポスター展示を行い、活発な討論が行われた。

【2022 年活動計画】

昨年に引き続き、(1) 関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2) 各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動し、オンラインにおける IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を計画するとともに、次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップおよび MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催することを予定している。現時点で主催技術会議 1 件、協賛等技術会議 3 件が予定されている。

【主催技術会議】

1. 2022 年 1 月 20 日に、鳥取県立生涯学習センター・オンラインのハイブリット形式にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催する。講演者として藤沢 健太 氏（山口大学）をお招きし、「通信用アンテナを改造した天文観測用電波干渉計」と題してご講演いただく。

【協賛等技術会議】

1. 2022 年 1 月 7 日に、みのお山荘 風の杜・オンラインのハイブリット形式にて、URSI-C 第 25 期第 2 回公開研究会が開催され、協賛する。
2. 2022 年 1 月 20 日に、オンライン形式にて、電子情報通信学会無線電力伝送研究専門委員会第 6 回ワークショップが開催され、協賛する。「実用化間近な空間伝送型ワイヤレス給電の基礎と応用」をテーマとして開催される。
3. 2022 年 8 月 29 日-31 日に、千葉県習志野市にて、iWEM 2022 が開催され、共催する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

【2021 年活動報告】

2021 年は技術講演会を 1 回共催、2 回協賛した。

[技術講演会] 共催

IEEE Virtual Distinguished Lecturer (VDL)

10 月 29 日 Zoom オンライン開催

Title: Connecting Space Assets to the Internet: Challenges and Solutions

Speaker: Mohammed Atiquzzaman

参加者数: 184 名 (登録 462 名)

[技術講演会] 協賛

電子情報通信学会 安全・安心な生活と ICT 研究会 (ICTSSL)

10 月 21、22 日 オンライン開催

参加者数： 35名

[技術講演会] 協賛

第12回 光・電波フォーラム・センシングと暗号

11月16日 Zoom オンライン開催

講演者： 易 利

演題： 安心・安全な社会に向けた電波センシング技術の動向

講演者： 山川 考一

演題： 中赤外レーザーを用いた採血不要の血糖値センサー

講演者： 富田 章久

演題： 量子暗号通信の最前線

参加者数： 17名

広報活動を活性化するため、Webサイトを活用してCOMS Kansai Chapterに関する情報公開を行っている。活動計画や報告は下記のURLにより提供している。

【2022年活動計画】

関西圏における通信技術に関わる技術者との交流をはかり、産業界とのつながりをもちつつ活性化を行うことを目的として講演会を開催する。加えて、通信技術に関わる研究者に議論と交流の場を提供し、会員数増加を目標に活動を行う。昨年はコロナの影響で開催数が少なくなったが、今年はできるだけオンライン開催も含めて開催数を増やすようにする。春以降に講演者を招待し、IEEE COMS Kansai Chapter 技術講演会を主催する。また、他の研究講演会への積極的な共催をはかり、周知活動を行うことで参加数増加を促し会員獲得を目指す。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

【2021年活動報告】

2021年は2件の技術講演会の主催、3件の協賛を行った。技術講演会の内容は以下の通りである。

2021年6月18日（金）に、オンラインに於いて、「医療AIの実用化に向けた挑戦と課題」をテーマとし、2件の講演を行った。1件目は「遠隔診療に向けた高速かつ安全な機械学習サービス ～挑戦とチャンス～」と題して、京都大学の辺松氏に遠隔診療におけるセキュリティの確保と計算効率との両立を実現する最新の研究についてご紹介頂いた。2件目は「産学連携を活用したデータに基づく医療AIの取り組み」と題して、パナソニックの清野正樹氏に、医療AIの具体的事例と技術及び、ビジネス上での課題についてご紹介頂いた。

また 2021 年 12 月 20 日（月）に、オンラインに於いて、「AI 向け次世代計算技術」をテーマとし、2 件の講演を行った。1 件目は「ニューロモーフィックシステム&デバイス」と題して、龍谷大学/NAIST の木村睦氏に AI 向けの計算デバイスであるメモリスタについてご紹介頂いた。2 件目は「FPGA 向け AI 推論回路開発」と題して、三菱電機の山本亮氏に、AI ネットワークの FPGA 実装についての課題とその解決についてご紹介頂いた。

講演会では、それぞれ 21 名（内 IEEE 会員 7 名）及び 21 名（内 IEEE 会員 5 名）の参加登録を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

また CS Tokyo/Japan Chapter と共同で IEEE CS Kansai Young Author Award の募集と選考を実施した。残念ながら受賞者は該当なしであった。

協賛としては、2021 年 5 月 10 日（月）～11 日（火）にオンラインで行われた「LSI とシステムのワークショップ 2021」（主催 IEICE/ICD）への協賛を行った。また 2021 年 9 月 11 日（土）に、オンラインで行われた「博士課程のキャリアについて語る会」（主催:IEEE Young Professionals）への協賛を行った。さらに 2021 年 10 月 24 日（日）～25 日（月）に、アートホテル弘前シティで行われた「SASIMI 2022」への協賛を行った。

【2022 年活動計画】

2022 年は引き続き技術講演会及び Young Author Award を実施するとともに、学生や若手研究者を主な対象とした研究活動の奨励と質の高い技術情報提供を行い、積極的な IEEE 会員獲得を目標とする。協賛については既に 2 件の協賛を予定しており、関西地区を含め全国で開催される各種シンポジウム、ワークショップへの積極的な協賛を通じ、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

【2021 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 講演会（主催）「ふっ素樹脂多層基板と 5G/Beyond5G・6G への展開」ワークショップ

（第一部）講演

演者／演題： 石田 薫（日本ピラー工業株式会社）／基板製品から見た 5G と Beyond5G/6G

演者／演題： 岩倉 哲郎（昭和電工マテリアルズ株式会社）／ふっ素樹脂多層基板向け低伝送損失接着フィルムの開発

演者／演題： 高木 裕紀（関西電子工業株式会社）／5G/Beyond5G、6G で必要となるふっ素樹脂ビルドアップ基板の加工と課題

演者／演題： 奥長 剛（日本ピラー工業株式会社）／多層基板構成に適したふっ素樹脂基板材料の開発

(第二部) パネルディスカッション

コーディネーター： 石田 薫 (日本ピラー工業株式会社)

パネリスト： 岩倉 哲郎 (昭和電工マテリアルズ株式会社)

高木 裕紀 (関西電子工業株式会社)

奥長 剛 (日本ピラー工業株式会社)

年月日/会場： 2021年3月27日/オンライン開催 (Zoom ウェビナー利用)

出席者数： 48名 (会員24名, 非会員24名)

2. 講演会 (主催) 「測定技術入門」 チュートリアルワークショップ

講演

演者/演題： 石川 峻樹 (株式会社 オリエントマイクロウェーブ) / 伝送路とコネクタ

演者/演題： 矢加部 利幸 (マルチポート研究所) / Sパラメータとネットワークアナライザ

演者/演題： 田中 賢悟 (キーサイト・テクノロジー株式会社) / スペクトラム・アナライザの基礎

演者/演題： 江森 浩司 (ローデ・シュワルツ ジャパン株式会社) / OTA テストとその試験環境についての基礎

年月日/会場： 2021年6月5日/オンライン開催 (Zoom ウェビナー利用)

出席者数： 91名 (会員35名, 非会員56名)

3. 講演会 (主催) 「AI とマイクロ波」 ワークショップ

講演

演者/演題： 大平 昌敬 (埼玉大学) / ニューラルネットワークを援用したマイクロ波フィルタ設計

演者/演題： 間瀬 暢之 (静岡大学グリーン科学技術研究所) / フロー反応条件迅速最適化におけるマイクロ波技術と機械学習の融合

演者/演題： 小松崎 優治 (三菱電機株式会社) / 移動通信基地局向け超広帯域 AI デジタル制御 GaN 増幅器

演者/演題： 山本 高至 (京都大学大学院情報学研究) / 無線ネットワークのための機械学習

年月日/会場： 2021年9月4日/オンライン開催 (Zoom ウェビナー利用)

出席者数： 60名 (会員33名, 非会員27名)

4. 第14回マイクロ波英語発表会 (主催)

年月日/会場： 2021年11月6日/オンライン開催 (Zoom ウェビナー利用)

発表件数： 23件/参加者数56名 (会員18名, 非会員38名)

5. 2020 EuMA Pioneer Award 受賞記念講演会 (共催)

演者/会場： 水野 皓司 (東北大学 名誉教授) / パシフィコ横浜

発表件数： 1件

6. IEEE AP-S Kansai Joint Chapter/MTT-S Kansai Chapter 合同若手技術交流会
2021 (共催)

(第一部) 講演

演者/演題: 前川 拓也 (株式会社村田製作所) / 60/79GHz 帯ミリ波レーダ
に関する開発紹介

演者/演題: 中谷 圭吾 (三菱電機株式会社) / ミリ波帯 GaN 増幅器の技術紹
介

演者/演題: 平川 昂 (ソフトバンク株式会社) / 高周波用整流回路の基礎

(第二部) ポスターセッション

年月日/会場: 2021年12月18日/オンライン開催 (Zoom, oVice 利用)

参加者数 : 79名 (会員37名、非会員42名)

II. 選奨

1. IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award

I. の 4. に記載の英語発表会で優れたプレゼンテーションを行った者に「Best Presentation Award」を授与した。更に、上位2名に対して「IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award」を授与した。授与式は2021年12月18日にオンラインで実施。

2. IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award

MTT-S Japan/Kansai/Nagoya Chapter の合同で、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手(38歳以下)の研究者個人に「IEEE Microwave Theory and Techniques Society Japan Young Engineer Award」を贈呈した。また、その中から特に優れた論文の著者に対して「Michiyuki Uenohara Memorial Award」を進呈した。

※受賞者は以下に記載

https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/chapter/MTT-17/award/YEA_past_awardees/index.html

※対象者の要件等は以下に記載

<https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/chapter/MTT-17/award/index-j.html>

III. 協賛

1. 電子情報通信学会 無線電力伝送研究専門委員会 第5回ワークショップ

— 電解方式ワイヤレス給電の最新動向 —

2021年3月17日 オンライン開催

2. 第12回 日本電磁波エネルギー応用学会講演会

— 化学プロセスのグリーンイノベーション (二酸化炭素とメタンの利用) —

2021年5月28日 オンライン開催

3. 2021 Microwave Workshops & Exhibition (MWE 2021)

2021年11月24日~26日 パシフィコ横浜

4. 第15回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム

- 多様な時代における電磁波・マイクロ波技術の発展と進化を展望する
国際シンポジウム —2021年10月13日～10月15日 オンライン開催

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. 役員会
2021年1月9日／Web会議 出席者数：11名
2021年12月11日／Web会議 出席者数：10名
2. 2020年IEEE関西支部総会
2021年2月18日／Web会議 Chapterからの出席者：1名
3. 2021年IEEE Chapter Operation Committee
2021年6月18日 オンライン Chapterからの出席者数：1名
2021年11月10日 オンライン Chapterからの出席者数：1名

【2022年活動計画】

2022年は、コロナの状況を見据えながらオンライン/オフライン/ハイブリッドで開催形式を検討しつつ、従来通り技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行う。技術領域としてはこれまでの戦力領域の枠組みに拘らず、新領域分野の開拓も検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。マイクロ波英語発表会での優秀な発表者2名にIEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Awardを授与し、国際的に活躍できる若手技術者の育成を強化する。また、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手研究者3名にIEEE MTT-S Japan Young Engineer Awardを授与し、その学術的貢献を表彰する。FellowおよびSenior Memberへの昇格候補者支援も、引き続きMTT-S Japan Chapter、MTT-S Nagoya Chapterと共同で行う。2014年より運用し始めた電磁波関連分野の学生と電磁波技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波 出会いの広場」をより効果的な運用に推進するとともに、この橋渡しを就職活動だけでなく学生のインターンシップなどにも展開する計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

【2021年活動報告】

Technical Meetingとしては、1月22日(金)に、オンラインにて、第1回IEEE Photonics Society Kansai Chapter 特別講演を主催、浅野卓氏(京都大学)から「機械学習を利用したフォトニック結晶ナノ共振器の設計」、桐山博光氏(量子科学技術研究開発機構)から「超高強度レーザーの世界」という題目でそれぞれご講演いただいた。参加者はXX名と盛会であった。これは、前日の21日(木)も含む2日間にわたってオンラインにて開催された、電子情報通信学会MWP/PN/EMT/PEM、電気学会EMT研究会との併催である。

10月19日(火)には、オンラインにて、新しい試みである第1回IEEE国際会議招待講演からの講演会2021および同日開催となる第2回IEEE Photonics Society Kansai Chapter 特別講演としてIEEE Distinguished Lecturer 招聘講演会を主催した。前者は、小西 毅氏(大阪大学)から「Further Development Potential of Photonic ADCs Under Contention Among Error Terms in SNR」、後者は、Gabriella Cincotti氏(Roma Tre University, Italy)から「MULTIDIMENSIONAL OPTICAL MULTIPLEXING」という題目でそれぞれご講演いただいた。

11月7日(日)には、オンラインにて、「第7回IEEE Photonics Society Kansai Chapter 英語発表会」を主催した。7名の学生による英語での発表のほか、Yaman Parasher氏(Exchange student from PIXNET in Osaka University)から“Erasmus Mundus Joint Master Degree - Photonic Integrated Circuits, Sensors and NETWORKS (PIXNET) -”、中野 誠二氏(三菱電機)から「Beyond 5Gに向けた100Gbps/λ PAM4 EML TO-CANの開発」と題してご講演いただいた。学生の優れた発表1件に対してはBest Student Presentation Awardと副賞を授与した(Chapter支援費を利用)。参加者は30名であった。

11月4日(木)-5日(金)には、オンラインで開催された電子情報通信学会OPE/LQE/PICS合同研究会 Photonic Device Workshop 2021に協賛、ナノカーボンフォトリクスに関するチュートリアル講演などを含む招待講演11件、OPE/LQE1種研として併催したポスター発表31件があった。PDW2021の参加登録者は176名であり、参加延べ人数(30分以上のZoom接続)は355名と盛会であった。

Administrative Meetingとしては、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月にオンラインで役員会を7回開催、年間活動方針、Technical Meetingの企画、運営について協議した。

【2022年活動計画】

2022年も、技術講演会の開催を中心に活動を展開する。1月27日には、例年通り電子情報通信学会PN/MWP/EST/EMT/PEM合同研究会と併催の形で特別講演イベントを主催するほか、MTT-SKCとの共催ワークショップや2021年度から新しく始めたIEEE国際会議招待講演からの講演会2022を企画する予定である。また、好評であった学生英語発表会も開催する予定である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

【2021年活動報告】

電子情報通信学会音声研究会・情報処理学会音声言語処理研究会と協賛する形で、中谷智広氏のFellow昇格記念講演を行った。

1. 国際会議(共催) IEEE LifeTech2021

Fellow 昇格記念講演会（協賛）

演 者： Dr. Tomohiro Nakatani (NTT)

演 題： 遠方マイクで収録した音声を近接マイク品質にする音響信号処理技術

年月日／会場： 2021年12月1日 オンライン開催 (Zoom)

出席者数： 60名

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter および IEEE SPS Sendai Chapter との連名により、IEEE SPS Japan Student Journal Paper Award、IEEE SPS Japan Student Conference Paper Award、 および IEEE SPS Japan Young Author Best Paper Award を実施し、それぞれ3名、3名、2名の受賞者を選定・表彰した。

以下の Technical Meeting を協賛した。

1. 第53回ストカスティックシステムシンポジウム (SSS' 21)

2021年10月30日～31日

立命館大学びわこ・くさつキャンパス

参加者: 155名、特別講演: 1件、チュートリアル講演: 1件、招待講演・オーガナイズドセッション講演: 36件、一般講演 45件

2. 第36回信号処理シンポジウム

2021年11月9日～12日

オンライン開催 (Zoom)

参加者: 129名、発表: 61件

【2022年活動計画】

引き続き、講演会を開催し、会員を中心とする国内外の学術交流を図る。

IEEE SPS Tokyo Joint Chapter、Sendai Chapter と連名で論文賞および学生賞の表彰を実施し、若手の研究を奨励するとともに、会員増加に努める。

これらの活動については下記 Web サイトで公開している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

j. CTS (Consumer Technology Society) West Japan Joint Chapter

【2021年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 国際会議（共催） IEEE LifeTech2021

年月日／会場： 2021年3月9日～3月11日／奈良ロイヤルホテル

出席者数： 190名（日本人157名、12カ国33名）

発表件数： 143件（口頭発表93件、ポスター47件、デモ3件）

内容： IEEE LSTC 主催の国際会議。ISTC は IEEE のライフサイエンスに係る、CT Society を含む 5 つの Society で構成する Council。長谷智弘教授（龍谷大学）が Conference Chair として創設。CT Society West-Japan Chapter のメンバーが運営の中心的な役割を担った。

2. IEEE Digital Symposium

年月日／会場： 2021 年 10 月 11 日／龍谷大学響都ホール

発表件数： 2 件

出席者数： 350 名

内容： CT Society West Japan Chapter Chair の長谷教授がコーディネータとなり、政府の「デジタルの日」に賛同した講演会を開催した。IEEE 前会長の福田敏男教授と東洋大学の坂村健教授の 2 つの講演。主たる運営はその会員で行なった。

3. 国際会議（主催） IEEE 9th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2021)

年月日／会場： 2021 年 10 月 12 日 - 10 月 15 日／メルパルク京都

発表件数： 330 件

出席者数： 430 名

内容： CT Society の長谷教授が設立した国際会議。毎年 10 月に IEEE 主催の国際会議として日本で開催している。GCCE 2020 の運営主体は CT-08 West Japan Chapter で、主たる運営はその会員で行なった。

4. 国際会議（共催） 2021 TRON Symposium

年月日／会場： 2021 年 12 月 8 日～12 月 10 日／東京ミッドタウン

出席者数： 100 名（IEEE CT Society が共催）

内容： CT Society の共催（Technical Sponsor）により、国際会議 2020 TRON Symposium を開催した。同場所で開催の TRONSHOW（6,000 名参加）の一環として開催。長谷智弘教授（龍谷大学）が Vice-Chair として運営参加。

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. チャプター役員会

年月日／会場： 2021 年 3 月 9 日／奈良ロイヤルホテル

出席者数： 3 名

2021 年の運営体制に関して打合せを実施した。

2. チャプター役員会

年月日／会場： 2021 年 7 月 11 日／北海道大学

出席者数： 3 名

2021 年の運営体制に関して打合せを実施した。

3. チャプター役員会

年月日／会場： 2021年10月14日／メルパルク京都

出席者数： 6名

GCCE 2020の準備状況を確認し、今後の進め方に関して打合せを実施した。

【2022年活動計画】

1. LifeTech 2022:

2022年3月7日～9日に吹田市の千里ライフサイエンスセンターにて国際会議 LifeTech 2022を開催する。この国際学会は、弊 Chapter の長谷智弘教授が創設した IEEE 主催のライフサイエンスに関する新規国際会議。IEEE Life Sciences Technical Community (IEEE LSTC)が主催で、IEEE LSTC には IEEE の 5 Society (Circuits and Systems Society, Consumer Electronics Society, Control Systems Society, Signal Processing Society, Engineering in Medicine and Biology Society) が参加。

2. GCCE 2022:

2022年10月12日～15日に吹田市の千里ライフサイエンスセンターにて国際会議 GCCE 2022を開催する。GCCE 2021では Young Profession イベントを通じて新規若手会員の獲得に努める。

3. 2022 TRON Symposium:

12月中旬に東京ミッドタウンで国際会議 2022 TRON Symposium (CT Society の共催 (Technical Sponsor)) を開催する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

【2021年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 講演会 (The 53rd ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications の Tutorial Lecture として企画) 演者:加嶋健司, 演題:Rare event modeling for linear estimation and control (2021/10/31)

II. 協賛

1. 計測自動制御学会 第8回 制御部門マルチシンポジウム (2021/3/1-4)
2. システム制御情報学会・計測自動制御学会 チュートリアル講座 2021「制御システムセキュリティとプライバシー」(2021/7/21)
3. The 53rd ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (2021/10/30-31)
4. 第64回自動制御連合講演会 (2021/11/13-14)
5. システム制御情報学会セミナー2021「AIの活用による産業の未来展望」(2021/11/30)

Non-Technical Meetings

Chapter 役員会

1. 第1回役員会 (2021/5/27)
2. 第2回役員会 (2021/11/14)

【2022年活動計画】

2022年は、主催・共催行事の開催を検討する他、例年通り下記の学会に協賛をする予定。

1. 計測自動制御学会 第9回制御部門マルチシンポジウム (2022/3/7-10)
2. ISCIE・SICE チュートリアル講座
3. The 54th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications
4. 第65回自動制御連合講演会
5. システム制御情報学会セミナー

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

1. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

【2021年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 講演会 (共催)

演者： IEEE IES Japan Joint Chapter

演題： パワーエレクトロニクス学会 238回定例研究会 (6月)

年月日/会場： 2021年6月5日 Web開催 (Zoom)

発表件数： 9件

出席者数： 151名

2. 講演会 (共催)

演者： IEEE IES Japan Joint Chapter

演題： パワーエレクトロニクス学会 239回定例研究会 (9月)

年月日/会場： 2021年9月4日 Web開催 (Zoom)

発表件数： 5件

出席者数： 49名

3. 講演会 (共催)

演者： IEEE IES Japan Joint Chapter

演題： パワーエレクトロニクス学会 240回定例研究会 (10月)

年月日/会場： 2021年10月16日 Web開催 (Zoom)

発表件数： 6件

出席者数： 94名

4. 講演会（共催）

演 者： IEEE IES Japan Joint Chapter

演 題： パワーエレクトロニクス学会 241 回定例研究会（12 月）

年月日／会場： 2021 年 12 月 18 日 Web 開催 (Zoom)

発表件数： 31 件

出席者数： 110 名

II. 協 賛

該当なし。

Non-technical Meetings

1. R3 年度 IEEE IES JJC 第1回 Web 会議

年月日／会場： 2021 年 5 月 24 日 Web 会議

出席者数： 4名

2. R3 年度 IEEE IES JJC 第2回 Web 会議

年月日／会場： 2021 年 11 月 17 日 Web 会議

出席者数： 4名

Chapter 支援費利用事業

1. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して 2020 年に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会で発表された論文の中から、35 歳以下の若手によるもの 1 件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与し、副賞として図書カード 1 万円分を授与した。（2021 年 4 月に実施予定であったが、COVID-19 感染防止のため延期され、2021 年 6 月 5 日に実施）

主旨： (B)若手獲得・育成の企画、利用支援費 1 万円

内訳： 副賞(1 万円)／件×1 件

2. 2021 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して 2021 年 12 月に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会における学生・若手技術者によりポスター形式の発表の中の優秀発表 2 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与し、副賞として図書カード 1 万円分を授与した。

主旨： (B)若手獲得・育成の企画、利用支援費 1 万円

内訳： 副賞(1 万円)／件×2 件

【2022 年活動計画】

パワーエレクトロニクス学会と共催で、4 月、6 月、8 月、10 月、12 月に定例研究会の開催が予定されている。

また、以下の表彰を行う計画である。

1. 2022 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award

IEEE-IES Japan Joint Chapter が毎回共催しているパワーエレクトロニクス学会定例研究会(12月の研究会は対象から除外する)の満35歳以下(ただし発表時点において)の最優秀論文1件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award を授与する。

2. 2022 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表

IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して12月に開催されるパワーエレクトロニクス学会定例研究会では学生・若手技術者によりポスター形式で30件程度の発表会が行われている。その中の優秀発表2件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与する。

その他、下記セミナーへ協賛予定である。

1. スマートエネルギーセミナー

ローカル VPP とマイクログリッド

～EVの蓄電池としての活用、V2G、地産地消、電力融通～

日時 2022年1月27日(木) 10:00～16:35(受付開始9:30)

会場 東京ビッグサイト 会議棟(609会議室)

これらの活動については下記の Web サイトで広報を行う。

URL <http://www.ieeeiesjapanchapter.blogspot.jp/>

m. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

【2021年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. MRIS 2021 (共催)

年月日/会場: 2021年6月10日 Webinar

発表件数: 10件

招待講演: Hitoshi Saito (Akita), “High-resolution magnetic imaging of magnetic transition region by alternating magnetic force microscopy”

出席者数: 27名

2. MRIS 2021 (共催)

年月日/会場: 2021年10月8日 Webinar

発表件数: 6件

招待講演: Kohji Nakamura, Kenji Nawa (Mie), “First principles calculations and material design of multilayer films with spin-orbit induced magnetic phenomena”

出席者数： 45 名

3. MRIS 2021 (共催)

年月日／会場： 2021 年 12 月 10 日 Webinar

発表件数： 8 件

招待講演： Junya Mori (FUJIFILM), “Large-capacity research data management platform realized by magnetic tape storage”

出席者数： 32 名

Non-technical Meetings

該当なし。

【2022 年活動計画】

2022 年は、関西・四国圏の磁性関連研究者を対象に、技術講演会の開催や学生・若手研究者を主たる対象とした研究会を開催するなど、技術情報の提供や会員獲得に向けた活動を実施する。具体的には、春か秋の適当な時期に基調講演と学生のポスター発表会をメインとする第6回関西四国磁性研究会を開催する。同会では学生に奨励賞を授与する予定である。なお、同会は 2021 年から順延している。これ以外に、DL 講演会、関西・四国地区での研究会の主催を企画する。国内の他 MAG chapter との連携を強化しており、DL 講演会のオンライン共同開催を進める。また、各国の chapter 間の国際協力活動を継続し、MagSoc virtual chapters meeting を通じて、若手研究者の交流やキャリア支援や DL 推薦などを協議する。また、他学協会と研究会などを共催・協賛する予定である。特に IEEE と関わりがある日本磁気学会の研究会との共催を進める。併せて会員への情報提供のため web site の充実を図る。

URL <http://ieemag.wixsite.com/kansai-shikoku>

V. 関西支部会員数

1. 会員数推移状況（2021年12月末調査時点）

表. 年ごとの会員数と内訳

Year	H	LF	F	LS	SM	LM	M	AM	GSM	StM	Total
2011	0	40	48	9	110	50	1,559	105	233	159	2,313
2012	0	44	38	11	118	59	1,587	82	317	78	2,334
2013	1	45	35	14	113	64	1,604	62	288	129	2,355
2014	1	46	31	20	116	69	1,594	60	271	99	2,307
2015	1	45	34	18	127	75	1,556	55	255	93	2,259
2016	1	48	30	23	126	82	1,547	61	258	82	2,258
2017	1	48	28	24	124	84	1,520	61	290	52	2,232
2018	1	41	27	23	126	88	1,539	59	266	49	2,219
2019	1	46	22	24	140	92	1,494	52	291	69	2,231
2020	1	49	21	30	145	98	1,470	45	241	55	2,155
2021	1	49	24	32	159	107	1,427	34	234	67	2,134

Grade code H: Honorary member, LF: Life Fellow, F: Fellow,
 LS: Life Senior member, SM: Senior Member,
 LM: Life Member, M: Member, AM: Associate Member,
 GSM: Graduate Student Member, StM: Student Member

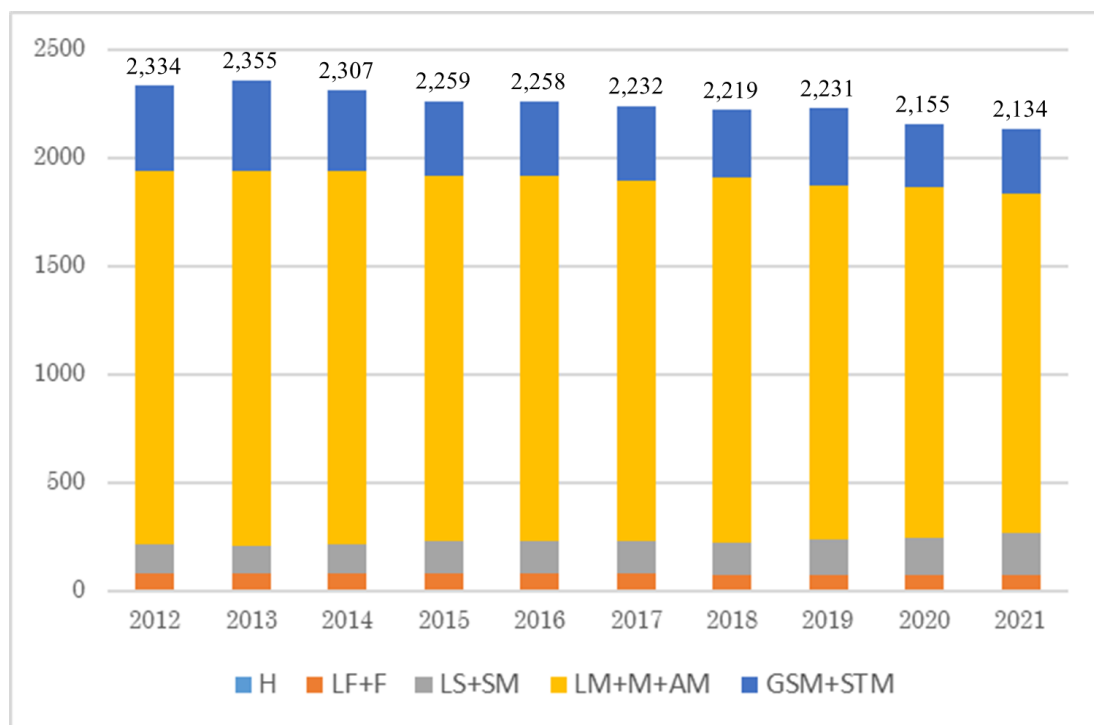


図. 会員区分の推移

2. ソサイエティ別会員数

[2021年12月31日更新]

◎ 幹事Chapter

Society Code	Society Chapter Name	Established Year	関西支部メンバー数	Chapter 構成	札幌	仙台	信越	東京	名古屋	関西	四国	広島	福岡
SP-01	Signal Processing Society Tokyo Joint Chapter	1982		東京Joint	○		○	◎	○		○	○	○
	Signal Processing Society Sendai Chapter	2013		仙台単独		○							
	Signal Processing Society Kansai Chapter	2007	130	関西単独						◎			
BT-02	Tokyo/Japan Sections Broadcast Technology Society Joint Chapter	1983	3	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
AP-03	Anntenas and Propagation Society Tokyo Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	◎					
	Anntenas and Propagation Society Nagoya Chapter	2006		名古屋単独					◎				
	Anntenas and Propagation Society Kansai Chapter	2006	69	関西Joint						◎	○	○	
	Anntenas and Propagation Society Fukuoka Chapter	2005		福岡単独									◎
CAS-04	Circuits and Systems Society Japan Joint Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	◎	○			○	
	Circuits and Systems Society Kansai Chapter	2002	97	関西単独						◎			
	Circuits and Systems Society Shikoku Chapter	2006		四国単独							◎		
	Circuits and Systems Society Fukuoka Chapter	2001		福岡単独									◎
NPS-05	Nuclear and Plasma Sciences Society Japan Chapter	1981	25	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
VT-06	Vehicular Technology Society Tokyo Chapter	1979	38	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
R-07	Reliability Society Japan Joint Chapter	1983	13	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CT-08	Consumer Technology Society East Joint Japan Chapter	1983		東京Joint	○	○	○	◎	○				
	Consumer Technology Society West Joint Japan Chapter	2008	27	関西Joint						◎	○	○	○
IM-09	Instrumentation and Measurement Tokyo/Japan Sections Joint Chapter	1973	10	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
AES-10	Aerospace and Electronic Systems Society Japan Chapter	1991	12	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CIS-11	Computational Intelligence Society Japan Chapter	2004	86	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
IT-12	Information Theory Society Japan Chapter	1981	45	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
IE-13	Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter	1981	69	関西Joint	○	○	○	◎	○	◎	○	○	○
TEM-14	Technology and Engineering Management Society Japan Chapter	1997	8	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
ED-15	Electron Devices Society Japan Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○	○
	Electron Devices Society Kansai Chapter	2000	168	関西単独						◎			
C-16	Computer Society Japan Chapter	1967		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○	
	Computer Society Kansai Chapter	2006	334	関西単独						◎			
	Computer Society Fukuoka Chapter	2004		福岡単独									◎
	Computer Society Nagoya Chapter	2006		名古屋単独					◎				
MTT-17	Microwave Theory and Techniques Society Japan Chapter	1958		東京Joint	○	○	○	◎			○	○	○
	Microwave Theory and Techniques Society Nagoya Chapter	2010		名古屋単独					◎				
	Microwave Theory and Techniques Society Kansai Chapter	2006	137	関西単独						◎			
EMB-18	Engineering in Medicine and Biology Society Japan Chapter	1970	118	東京Joint	○	○	○	◎	○	○			
	West Japan Chapter of Engineering in Medicine and Biology	2007		福岡Joint								○	◎
COM-19	Communications Society Japan Chapter	1973		東京Joint	○		○	◎	○		○	○	○
	Communications Society Sendai Section Chapter	2012		仙台単独		○							
	Communications Society Kansai Chapter	2006	185	関西単独						◎			
UFFC-20	Ultrasonics, Ferroelectrics and Frequency Control All Japan Joint Chapter	1986	34	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
EP-21	Electronics Packaging Society Japan Chapter	1994	42	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
OE-22	Oceanic Engineering Society Japan Chapter	1996	9	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CS-23	Control Systems Society Japan Chapter	1981		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○	○
	Control Systems Society Kansai Chapter	2011	88	関西単独						◎			
RA-24	Robotics and Automation Society Japan Joint Chapter	1990	151	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
E-25	Education Society Japan Chapter	1981	14	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
PC-26	Professional Communication Society Japan Chapter	2006	2	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
EMC-27	Electromagnetic Compatibility Society Japan Joint Chapter	1980	35	東京Joint	○		○	◎	○	○	○	○	○
	Electromagnetic Compatibility Society Sendai Chapter	2001		仙台単独		○							
SMC-28	Systems, Man, and Cybernetics Society Japan Chapter	1974	89	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Systems, Man, and Cybernetics Society Hiroshima Chapter	2005		広島単独									◎
GRS-29	Geoscience and Remote Sensing Society All Japan Joint Chapter	1982	16	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
SIT-30	Society on Social Implications of Technology Japan Chapter	1983	4	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
PE-31	Power & Energy Society Japan Joint Chapter	1964	54	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
DEI-32	Dielectrics and Electrical Insulation Society Japan Chapter	1986	11	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Magnetics Society Tokyo Chapter	1977		東京単独				◎					
	Magnetics Society Sendai/Sapporo Joint Chapter	2005		仙台Joint	○	○							
	Magnetics Society Shin-etsu Chapter	2015		信越単独			◎						
	Magnetics Society of Japan Nagoya Chapter	2008		名古屋単独					◎				
MAG-33	Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter	2015	37	関西Joint						◎	○		
	Fukuok/Hiroshima Joint Sections Magnetics Society Chapter	2018		福岡Joint								○	◎
	Industry Applications Society Japan Chapter	1973	57	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
IA-34	Power Electronics Society Japan Joint Chapter	1990	79	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Power Electronics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									◎
PHO-36	Photonics Society Japan Chapter	1986		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○	
	Photonics Society Kansai Chapter	2007	67	関西単独						◎			
	Photonics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									◎
SSC-37	Solid-State Circuits Society Japan Chapter	1998		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○	○
	Solid-State Circuits Society Kansai Chapter	2001	110	関西単独						◎			
ITS-38	Intelligent Transportation Systems Society Tokyo Chapter	2014	26	東京単独				◎					
	Intelligent Transportation Systems Society Nagoya Chapter	2013		名古屋単独					◎				
PSE-43	Product Safety Engineering Society		5	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CEDA-44	Council on Electronics Design Automation All Japan Joint Chapter	2014		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○

他支部Jointで関西支部会員数が50名を越えるもの

「◎」幹事 Section(活動の主体、Rebate の受領及活動報告義務)、「○」Joint Chapter に参画している Section 12 名以上で、Chapter の設立が可能。なお、関西 Section が参画する Chapter のみを一覧

VI. 2021年 会計報告

収入の部		2021年計画		2021年実績		
◆IEEE Entity間助定	2,255,900	内容		2,352,425	内容	
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,525,388	2020年実績: \$ 14,357.95 : 106.24 JPY/USD (Chapter Rebate&Bonus: \$ 3,535, AG Rebate&Bonus: \$ 885 含む)		1,418,791	2021年度実績: \$12,998: 109.27 JPY/USD - 手数料¥1,500	
▲ Chapter Rebate支払	▲ 375,561	2020年実績: (\$ 200X13)X1.1+\$ 75X9= \$ 3,535		▲ 248,586	2021年度実績: (\$200×1.1)×10+\$75×1=\$2,275	
▲ Affinity Group Rebate支払	▲ 62,682	2020年実績: (\$ 200X2)X1.1+\$ 75X2= \$ 590		▲ 72,588	2021年度収入: (\$200×1.1)×3+\$75×2=\$810 より 9/10 LMA分 24,039円支払 12/8 WIE分 32,235円支払 12/22 YP分 16,314円支払 (IEEE TOWERS 副賞)	
・ SB Rebate	127,500	2020年実績: \$1,200.00: 106.25 JPY/USD		111,485	2021年度実績: \$1,034: 109.27 JPY/USD - 手数料¥1,500	
▲ SB Rebate支払	▲ 127,502			▲ 112,986	9/10 全7SB分 112,986円支払	
・ Section Rebate 小計	1,087,143			1,096,116	レート換算により1円未満の誤差あり	
・ Section Assessment 2020前後期	3,925,049	2020年実績: 前期:\$36,445.89,後期:\$638.05		3,630,232	2021年実績: 前期:\$33,616.38X¥107.99=¥3,630,232, 5/11, 後期:未着 -> 来年度へ	
▲ Japan Council拠出金+手数料	▲ 3,336,292	2020年実績: JCへのAssessment入金85% (振込手数料含) 前期: 3,279,747円 (内手数料1,940円) 後期:56,545円 (内手数料440円)		▲ 3,085,697	2021年実績: 上記の85% (振込手数料含) 前期: 3,085,697円 (内手数料1,940円) 後期:未着 -> 来年度へ	
・ Section Assessment小計	588,757	2020年実績: 15%還元残高 前期: 578,779円、後期: 9,978円		544,535	2021年実績: 15%還元残高 前期: 544,535円、後期:	
・ LMA Fund	0			0		
・ WIE Fund	0			44,840	R10 Fund, WIE Symposium 2021/12/3 \$400 (112.10 JPY/USD)	
・ YP Fund	0			44,789	R10 Fund, Initiative, 博士のキャリアを語る会 2021/12/9 \$397 (112.82 JPY/USD)	
・ AG Fund 小計	0			89,629		
	260,000	R10 Section Incentives for 2020 Activities \$2,500 (104 JPY/USD) \$450 up、2021年初受領見込み		482,460	R10 Section Incentives for 2020 Activities 2020/12/20 \$2,500 (102.40JPY/USD) R10 Section Incentives for 2021 Activities 2021/12/23 \$2,000 (113.23JPY/USD)	
	300,000	TENCON2020余剰金		0	未着 -> 来年度へ	
				123,748	R10 Best Membership Retention Award 2021/10/27 \$500 (113.12JPY/USD), ¥56,560 R10 Incentive, SPNIC Survey 2021/12/2 \$600 (111.98JPY/USD), ¥67,188	
	20,000	銀行利息 2020年実績予想程度		15,937	銀行利息 (12/20時点) 15,933円 CB口座利息 4円 日本口座利息 ¥2 (2/22), ¥2 (8/23)	
・ その他小計	580,000			622,145		
◆ Japan CouncilからのSection支援 (Fund)	250,000			105,418		
・ Section支援(SB)	0	2021年 Section支援申請無し		0		
・ Section支援(WIE)	0	2021年 Section支援申請無し		0		
・ Section支援(EA)	150,000	期初申請は無し、以下を期中 (9月頃) 申請 150,000 一般向け科学/技術教育イベント (9~10月) 半額		105,418	第1回EAイベント(8/21) Section支援費、総費用¥210,837の半額	
・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	100,000	期初申請は無し、以下を期中 (9月頃) 申請 100,000 新Senior昇格者授与メダル (JC大2022年総会用 半額5,000×20個)		0	余分を見て30個申請、総額¥300,000 Section支援費の¥150,000を相殺の上、¥150,000をJCに支払	
小計	2,505,900			2,457,843		
◆ 2020年からの繰越金	4,614,399	¥口座 ¥278,560- (2021/1/8, WIE活動費-Rebate支払後) \$口座 \$40,294.48- (2020/12/1, ¥4,335,839.- TTB Avg 107.60)		4,614,399	¥口座 ¥278,560- (2021/1/8, WIE活動費-Rebate支払後) \$口座 \$40,294.48- (2020/12/1, ¥4,335,839.- TTB Avg 107.60)	
合計	7,120,299			7,072,242		

支出の部	2021年計画		2021年実績	
◆会合・AWARD・活動費	3,751,288	内容	1,466,381	内容
・関西支部活性化費	1,423,500	2020年計画相当+新規活性化イベント、Hybrid(対面,Web)会議対応: 150,000 MAW派遣旅費(10月札幌 AGから各1名) 50,000 JapanSYWL学生派遣(10月札幌 1名) 300,000 国際イベント 学生派遣(時期場所未定 2名) 100,000 博士のキャリアを語る会(YP 9~10月) 100,000 シニア会員昇格講演会(NC 9~10月) 100,000 企業会員を増やすための講演会(MDC 9~10月) - IEEE Mile Stoneの関西での事例 300,000 一般向け科学/技術教育イベント(EA 9~10月) 203,500 スピーカーマイク+拡張マイク3個(見積書参照) 120,000 Webカメラ	801,947	120,181 MAW派遣旅費(10/30-31,3名) 49,940 SYWL派遣旅費(10/30-31,1名) 30,000 博士のキャリアを語る会・謝礼(9/11) 51,671 博士のキャリアを語る会・懇談会(同) 50,638 シニア会員昇格講演会(11/25,会場費) 20,000 シニア会員昇格講演会(11/25,謝金) 51,000 同懇親会(6,000×8名+個室3,000) ▲24,000 同懇親会会費徴収(3,000×8名) ※来年度へ(企画中、2022/1/25開催予定) 210,837 第1回EAイベント(8/21) 184,300 スピーカーマイク+拡張マイク3個 49,600 Webカメラ(6/9) 7,780 XLR-RCA 変換ケーブル(7/9,2本)
・総会開催費	600,000	2020年計画相当(JCには下の参加費入金分を差引いた金額を報告): 資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等 内、懇親会費は、7,000コース×24名=168,000 + 会場費46,000 = 214,000 下記懇親会費徴収額を超える114,000を支部が負担	24,886	9,480 総会資料印刷費 0 会場費(オンライン開催) 2,622 総会資料等送料 12,674 受賞者へのメダル・賞状郵送料 110 消耗品費等
▲懇親会費徴収	▲100,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(5,000円×20名想定) ソーシャルディスタンスを考慮し人数限定開催(最大24名)	0	懇親会非実施
・講演会開催費(TPC)	150,000	TPCの講演者への謝礼:3万円×5人	60,000	第113回技術講演会(9/2)謝金、第114回技術講演会(10/5)謝金
・理事会費	250,000	会場代他(5万円×5回予定)	67,415	第1回~第4回理事会はオンライン開催 第5回は現地とオンラインで並行開催 21,515 第5回会場費・飲料費(大阪工業大学) 97,900 第5回懇親会費(13名分) ▲52,000 同懇親会会費徴収(4,000×13名)
・Committee会合費	150,000	2020年計画相当: MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	0	未費消
・メダル、研究奨励賞	377,788	2020年計画相当: 140,000 学生研究奨励賞(¥20,000 7名):2021年総会用 37,788 YP賞メダル(3個分):2022年総会用 200,000 JCメダル(20個分):2022年総会用	344,744	180,000 学生研究奨励賞(2/18 20,000 9名) 14,744 YP賞メダル(2022年総会用、1個予定) 150,000 JCメダル作成費用(2022年総会用、30個予定)
・Student Branch支援費	390,000	2020年計画相当: 25,000 SB Chairミーティング(4~5月) 100,000 研究交流会(7月) 145,000 英語プレゼン大会(1月、10~11月):昨年度分を1月開催 90,000 アレキストミツグコファクト(9~11月) 30,000 年末交流会(12月)	0	未費消
・LMAG支援費	160,000	2020年計画相当: 40,000 技術講演会開催・準備費用(手土産・講師謝礼) 20,000 英文添削(春頃依頼) 50,000 東京JALMAG会議参加費(旅費:春) 8,000 LMAGサロン等活動費(事務費用含) 22,000 SBプレスト大会(LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)(1月、10~11月):昨年度分を1月開催、今年度分を10月23日開催	55,000	30,000 LMAGサロン講師謝礼(4/22) 20,000 英文添削(5/8) 5,000 立命館大学SB英語プレゼン大会LMAG賞(11/10)
・WIE支援費	250,000	2020年計画相当: WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)	112,389	WIE Symposium
・EA支援費	100,000	新規:EA活動雑費	0	関西支部活性化費の枠で充当
◆事務経費	0		8,196	
・外部監査費	0	外部監査不要	0	
・事務用品費	0	ファイル等	220	110(7/10,布フジ)、110(7/17,角2封筒)
・旅費	0	各種旅費支援	3,880	460(7/15,EAイベント運営スタッフ) 3420(8/21,EAイベント運営スタッフ)
・通信費	0	郵送料、宅急便等	4,096	396(7/21,EAイベントFlyer送料)、2540(9/25,WIEシンポジウム機材送料)、1160(12/27,理事会機材送料)
◆雑費	30,000		241,352	
・取引手数料、他	30,000	2020年計画相当: 為替手数料、振込手数料 (理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)	241,352	223,378 為替損益(1/1 \$残高\$42,794.48, ¥4,591,839.-, TTB Avg 107.30を1/4付TTB 102.08 で換算 ⇒ ¥4,368,461) 770 口座残高証明書(Financial Report添付)×3回 15,664 振込手数料(総会関連,LMAG,YPイベント,EAイベント,Section Rebate,SB Rebate,TPC-NC活性化費,MAW-SYWL旅費,メダル作成費,理事会費,他)
小計	3,781,288		1,715,929	
◆2022年への繰越	3,339,011		5,356,313	¥口座 ¥532,082.- (2021/1/7,振込後) \$口座 \$46,838.75- (2021/12/23, ¥4,824,231.- TTB Avg 103.00)
合計	7,120,299		7,072,242	

VII. 2022年 予算

収入の部		2021年実績	2022年計画	
◆IEEE	Entity間勘定	2,352,425	2,282,911	内容
	・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,418,791	1,418,791	2021年度実績相当：\$12,998: 109.27 JPY/USD - 手数料¥1,500 (Chapter Rebate&Bonus: \$ 2,275, AG Rebate&Bonus: \$ 810 含む)
	▲Chapter Rebate支払	▲ 248,586	▲ 248,586	2021年度実績相当：(\$200×1.1)×10+\$75×1=\$2,275
	▲Affinity Group Rebate支払	▲ 72,588	▲ 88,509	2021年度実績相当：(\$200×1.1)×3+\$75×2=\$810 (88,509円) 全額を年内に費消予定
	・ SB Rebate	111,485	111,485	2021年度実績相当：\$1,034: 109.27 JPY/USD - 手数料¥1,500
	▲SB Rebate支払	▲ 112,986	▲ 112,986	2021年度実績相当：全7SB分 112,986円
	・ Section Rebate 小計	1,096,116	1,096,116	
	・ Section Assessment 2020前後期	3,630,232	3,762,232	2021年度実績相当：前期:\$33,616.38×¥107.99=¥3,630,232, 5/11後期:2021年分\$600、2022年分\$600、計\$1,200×¥110=¥132,000
	▲Japan Council拠出金+手数料	▲ 3,085,697	▲ 3,197,897	2021年度実績相当：上記の85% (振込手数料含) 前期：3,085,697円 (内手数料1,940円) 後期：未着
	・ Section Assessment小計	544,535	564,335	2020年度実績相当：15%還元残高 前期：578,779円、後期：9,978円
	・ LMAG Fund	0	0	
	・ WIE Fund	44,840	40,000	R10 Fund, Initiative 応募
	・ YP Fund	44,789	40,000	R10 Fund, Initiative 応募
	・ AG Fund 小計	89,629	80,000	
		482,460	226,460	2021年度実績相当 \$2,000 (113.23JPY/USD)
		123,748	300,000	TENCON2020余剰金
		15,937	16,000	銀行利息 2021年度実績予想相当
	・ その他小計	622,145	542,460	
◆Japan CouncilからのSection支援 (Fund)		105,418	150,000	
	・ Section支援(SB)	0	0	2021年 Section支援申請無し
	・ Section支援(LMAG, WIE, YP, EA)	105,418	0	期初申請は無し、必要に応じて都度申請
	・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	0	150,000	JC共通デザインメダル支援費 2021年度実績相当
	小計	2,457,843	2,432,911	
◆2021年からの繰越金		4,614,399	5,356,313	¥口座 ¥766,688.- (2021/12/22, YP振込後) \$口座 \$44,838.75- (2021/12/20, ¥4,597,771.- TTB Avg 102.49)
	合計	7,072,242	7,789,224	

支出の部	2021年計画		2022年計画	
◆会合・AWARD・活動費	3,751,288	内容	3,900,788	内容
・関西支部活性化費	1,423,500	2020年計画相当+新規活性化イベント、Hybrid(対面,Web)会議対応: 150,000 MAW派遣旅費(10月 札幌 AGから各1名) 50,000 JapanSYWL学生派遣(10月 札幌 1名) 300,000 国際イベント 学生派遣(時期場所未定 2名) 100,000 博士のキャリアを語る会(YP 9~10月) 100,000 シニア会員昇格講演会(NC 9~10月) 100,000 企業会員を増やすための講演会(MDC 9~10月) - IEEE Mile Stonesの関西での実例 300,000 一般向け科学/技術教育イベント(EA 9~10月) 203,500 スピーカー+マイク+拡張マイク3個(見積書参照) 120,000 Webカメラ	1,208,000	2021年計画相当のイベント開催 150,000 MAW派遣旅費(10月 四国 AGから各1名) 50,000 JapanSYWL学生派遣(10月 四国 1名) 300,000 国際イベント 学生派遣(時期場所未定 2名) 100,000 博士のキャリアを語る会(YP 9~10月) 100,000 シニア会員昇格講演会(NC 9~10月) 100,000 企業会員を増やすための講演会(MDC 1月) 300,000 一般向け科学/技術教育イベント(EA 9~10月)
・総会開催費	600,000	2020年計画相当(OCIには下の参加費入金を差引いた金額を報告): 資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等 内、懇親会費は、7,000コース×24名=168,000 + 会場費46,000 = 214,000 下記懇親会費徴収額を超える114,000を支部が負担	600,000	2021年計画相当(OCIには下の参加費入金を差引いた金額を報告): 資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等 内、懇親会費は、7,000コース×24名=168,000 + 会場費46,000 = 214,000 下記懇親会費徴収額を超える114,000を支部が負担
▲懇親会費徴収	▲ 100,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(5,000円×20名想定) ソーシャルディスタンスを考慮し人数限定開催(最大24名)	▲ 125,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(5,000円×25名想定) ソーシャルディスタンスを考慮し人数限定開催(最大32名; 4名×8テーブル)
・講演会開催費(TPC)	150,000	TPCの講演者への謝礼: 3万円×5人	150,000	TPCの講演者への謝礼: 3万円×5人
・理事会費	250,000	会場代他(5万円×5回予定)	300,000	会場代他(5万円×6回予定)
・Committee会合費	150,000	2020年計画相当: MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	150,000	2021年計画相当: MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議
・メダル、研究奨励賞	377,788	2020年計画相当: 140,000 学生研究奨励賞(¥20,000 7名): 2021年総会用 37,788 YP賞メダル(3個分): 2022年総会用 200,000 JCメダル(20個分): 2022年総会用	537,788	2021年計画と実績を考慮: 200,000 学生研究奨励賞(¥20,000 10名): 2022年総会用 37,788 YP賞メダル(3個分): 2023年総会用 300,000 JCメダル(30個分): 2023年総会用、JCより半額支援金有り
・Student Branch支援費	390,000	2020年計画相当: 25,000 SB Chairミーティング(4~5月) 100,000 研究交流会(7月) 145,000 英語プレゼン大会(1月、10~11月): 昨年度分を1月開催 90,000 アレクサ・ミッドナイト(9~11月) 30,000 年末交流会(12月)	390,000	2021年計画相当: 25,000 SB Chairミーティング(4~5月) 100,000 研究交流会(7月) 145,000 英語プレゼン大会(1月、10~11月): 昨年度分を1月開催 90,000 アレクサ・ミッドナイト(9~11月) 30,000 年末交流会(12月)
・LMAG支援費	160,000	2020年計画相当: 40,000 技術講演会開催・準備費用(手土産・講師謝礼) 20,000 英文添削(費額依頼) 50,000 東洋FMAG会議参加費(旅費: 春) 8,000 LMAGサロン等活動費(事務費用含) 22,000 SBプレスト大会(LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)(1月、10~11月): 昨年度分を1月開催、今年度分を10月23日開催	160,000	2021年計画相当: 40,000 技術講演会開催・準備費用(手土産・講師謝礼) 20,000 英文添削(費額依頼) 50,000 東洋FMAG会議参加費(旅費: 春) 8,000 LMAGサロン等活動費(事務費用含) 22,000 SBプレスト大会(LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)(10~11月)
・WIE支援費	250,000	2020年計画相当: WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)	250,000	2021年計画相当: WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)
・YP支援費			120,000	SB-YP交流イベント(新規イベント)、他支部YPイベント参画
・EA支援費	100,000	新規: EA活動雑費	100,000	新規: EA活動雑費
・Chapter支援費	0		60,000	30,000×2件
◆事務経費	0		0	
・外部監査費	0	外部監査不要	0	外部監査不要
・事務用品費	0	ファイル等	0	ファイル等
・旅費	0	各種旅費支援	0	各種旅費支援
・通信費	0	郵送費、宅急便等	0	郵送費、宅急便等
◆雑費	30,000		30,000	
・取引手数料、他	30,000	2020年計画相当: 為替手数料、振込手数料 (理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)	30,000	2021年計画相当: 為替手数料(CB口座の為替損益調整は円安傾向で益化の見通し) 振込手数料(理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)
小計	3,781,288		3,930,788	
◆次年度への繰越金	3,339,011	2022年への繰越金	3,858,436	2023年への繰越金
合計	7,120,299		7,789,224	

VIII. 受賞者

IEEE 関西支部 Young Professionals 賞受賞者 (1名)

久野 大介 大阪大学

IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者 (6名)

アフメド フォイサル 奈良先端科学技術大学院大学

板原 壮平 京都大学

角川 勇貴 奈良先端科学技術大学院大学

片山 慎治 京都大学

中野 萌士 奈良先端科学技術大学院大学

山口 隼平 大阪大学

IEEE 関西支部メダル受賞者 (新 Senior member) (19名)

石田 秀俊 パナソニック

木村 裕一 近畿大学

小西 一暢 パナソニック

黒田 知宏 京都大学

森 伸也 大阪大学

村瀬 康裕 村田製作所

中原 健 ローム

西村 佳壽子 パナソニック

丹羽 健太 NTT コミュニケーション科学基礎研究所

酒井 啓之 東京工業大学

重川 直輝 大阪市立大学

塚本 直之 音羽電機

渡辺 恭志 ブルックマンテクノロジー

八木 康史 大阪大学

吉本 昌広 京都工芸繊維大学

野田 実 京都工芸繊維大学

神田 崇行 京都大学

船富 卓哉 奈良先端科学技術大学院大学

河村 岳 パナソニック

IEEE 関西支部 新 Fellow

(3名)

河原 英紀

和歌山大学

荒木 章子

NTT コミュニケーション科学基礎研究所

上田 哲三

パナソニック

(敬称略)

以降、参考情報

I. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following: Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN.

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,
representatives of Affinity Groups,
such other members appointed by the Section Executive Committee,
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section,

shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

IEEE Japan Council メダル授与規定

関西支部は、関西支部活動への積極的な参画を動機付けること、及び、Member Grade の昇格を動機付けることを目的とし、また、関西支部活動のアピールを行なうことにより関西支部の活性化に繋げることを目的として、IEEE Japan Council メダルを下記の者に授与する。

1. 関西支部に所属する新 Fellow で、Senior Member 昇格時に IEEE 関西支部メダルもしくは IEEE Japan Council メダルを贈呈されなかった者
2. 総会の前年の 1 年間の間に関西支部で新 Senior Member に昇格した者
3. 支部長が推薦し、理事会において承認された者

また、下記の希望者に対しては、支部長が推薦し、理事会において承認された上で、有償にて授与することができる。但し、その金額は関西支部が IEEE Japan Council メダルを Japan Council から購入した最新の購入単価とする。

4. 関西支部に所属する Fellow 又は Senior Member の希望者で、Fellow 昇格時又は Senior Member 昇格時において IEEE 関西支部メダルもしくは IEEE Japan Council メダルを贈呈されなかった者
5. 関西支部内部の運営に貢献のあった者
6. 上記以外の特別な理由で理事会の承認を得た者

本規定は、施行/改定承認日から適用する。

また、本規定の施行と同時に、IEEE 関西支部メダル授与規定(2017 年 1 月 1 日改定)を撤廃する。

2022 年 2 月 22 日施行

年 月 日改定

年 月 日改定

IEEE 関西支部メダル授与規定

関西支部は、関西支部活動への積極的な参画を動機付けること、及び、Member Grade の昇格を動機付けることを目的とし、また、関西支部活動のアピールを行なうことにより関西支部の活性化に繋げることを目的として、IEEE 関西支部メダルを下記の者に授与する。

7. 関西支部に所属する新 Fellow で、Senior Member 昇格時に IEEE 関西支部メダルを贈呈されなかった者
8. 総会の前年の 1 年間の間に関西支部で新 Senior Member に昇格した者
9. 支部長が推薦し、理事会において承認された者

また、下記の希望者に対しては、支部長が推薦し、理事会において承認された上で、有償にて授与することができる。但し、その金額は IEEE 関西支部メダルを造幣局から購入した最新の購入単価とする。

10. 関西支部に所属する Fellow 又は Senior Member の希望者で、Fellow 昇格時又は Senior Member 昇格時において IEEE 関西支部メダルを贈呈されなかった者
11. 関西支部内部の運営に貢献のあった者
12. 上記以外の特別な理由で理事会の承認を得た者

本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2008 年 9 月 17 日改定

2010 年 6 月 23 日改定

2012 年 1 月 4 日改定

2014 年 5 月 9 日改定

2017 年 1 月 1 日改定

2022 年 2 月 22 日撤廃

IEEE 賞状用紙支給に関する規定について

IEEE Japan Council の Award 登録を行った Chapter、Affinity Group、Student Branch の表彰に対し、IEEE の賞状に台紙を支給することができる。

1. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① IEEE Japan Council の Award 登録手続きに従い、登録を行う。
- ② IEEE Japan Council の Award 登録用紙(Excel)、賞状の必要枚数、賞状送付先住所氏名を添え、賞状授与申請のメールを関西支部事務局(sec-kansai@ieee-jp.org)に送付する。なお、申請は会合の2週間以上前とする。
メールタイトルは、「【IEEE 賞状授与申請】[組織名]必要に応じて備考」としていただきたい。
- ① 内容を確認し、問題がなければ Award Committee より、所定の住所へ賞状を発送する。
- ② 授与組織は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、関西支部事務局にメール送付する。

2. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016年10月20日施行

2017年1月1日改定

IEEE 関西支部 Chapter 予算補てんに関する規定について

Chapter が活動を行う際に、関西支部からの Rebate、Society からの支援では活動費がまかなえない場合に、関西支部が Chapter の不足額の補てんについては、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

年初に Chapter 支援総額を予算化し、その予算の中で運用する。

なお、予算総額については、2月に開催される総会で承認をする。予算額は、その年の支部の活動、為替レートなどにより変動する可能性がある。

1年間の Chapter あたりの補てん額の上限は 3 万円とする。なお、予算総額に応じ、上限額は変わることがある。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① Chapter より、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、現在の Chapter 資金、会合にかかる想定費用、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Chapter Operation Committee (COC) に送付する。なお、申請は会合の 3 週間以上前とする。
- ② COC は、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、Chapter からの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ Chapter に承認の可否を連絡する。
- ④ Chapter は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、各種領収書、請求書の PDF を関西支部事務局にメール送付するとともに、請求書の原本を関西支部事務局に送付する。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、Chapter に所定の金額を振り込む。

3. 補てん可能な内容について

① 講演者への謝礼

原則、IEEE 会員の講演者については、謝礼を遠慮していただいているが、謝礼をしなければ、有用な事業が実施できない場合に、支援を行う。

- i) Chapter が「主催」もしくは「共催」する事業に限定する
- ii) 謝礼額は、原則として、Chapter ごとの差が出ないように、1 名 1 万円とする
- iii) 支援を受ける事業については、Chapter のホームページ等で Chapter 会員に周知する。
- iv) 想定参加人数は、10 名以上であること。

② 役員会合に対する支援

Chapter の役員会合に対しては、Japan Council からは支援が受けられないが、役員
の力が Chapter 活動に大きく影響するため、役員会合に対しても一定の支援を行うこと
にする。ただし、飲食に対する支援は、1 回/年とする。

- i) 会合の参加者は 3 名以上
- ii) IEEE 本部の Meeting Report が作成されていること
- iii) 支援額は、飲食代の 1/2 以下とする
 - ・1 名あたりの支援額の上限を 2,000 円(税抜き)とする
 - ・会合の終了時間が 19 時以降の場合に支援を行う

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 9 月 23 日施行

2017 年 1 月 1 日改定

IEEE 関西支部 SB 支援に関する規定について

関西支部が Student Branch(SB)活動に対する支援については、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

- ① 1事業の支援額の上限は3万円とする。なお、旅費は除く。
- ② 支部の予算状況に応じて運用し、支援を保証するものではない。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① SBより、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Student Activities Committee(SAC)に送付する。なお、申請は会合の3週間以上前とする。
- ② SACは、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、SBからの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ SBに承認の可否を連絡する。
- ④ SBは会合開催後、活動報告レポートの関西支部への提出及びSBのホームページへの活動報告の登録を行った後に、領収書のPDFを関西支部事務局にメール送付するとともに、領収書の原本を関西支部事務局に送付する。
なお、活動報告のレポートには、
 - ・開催日時、場所
 - ・参加人数および可能であれば、IEEE会員の参加人数
 - ・イベントの規模がわかる写真
 - ・副賞などの支援を行った場合には、受賞者の写真を掲載することが望ましい。SBのホームページには活動報告のレポートを掲載するなどに対応してもよい。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、SB口座に所定の金額を振り込む。

3. 支援内容について

SBの活動に対し、

- ① IEEE会合に付随して開催されること。
- ② IEEE本部の Meeting Report が作成されていること
- ③ SBのホームページに会合の報告が公開されること

の条件が満たされ、かつ、各項目記載の条件を満たす場合に、以下のような支援を行う

- ④ 会合に付随する飲食の支援について
以下の要件を満たす場合に、費用の1/2もしくは、2,000円(税抜)/人の低い額を支援する。
 - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上
- ⑤ 会合に参加する際の旅費の支援について
以下の要件を満たす場合に、旅費交通費を支援する。
 - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上

ii) 運営側、もしくは発表者として参加していること。単なる参加者には支援を行わない。

支援対象者の役割一覧を提出すること

⑥ 発表会などの副賞について

以下の要件を満たす場合に、副賞を支援する。

- i) IEEE 会合に参加している人数が 10 名以上
- ii) 副賞を受け取れる人数は参加者の 10%以下
- iii) 副賞は現金以外(図書券など)とする
- iv) 副賞の上限は 10,000 円/人とする

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・ 事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 12 月 20 日施行

IEEE 関西支部理事会役員に関する規定について

IEEE 関西支部理事会及び支部長が指名する理事役員として、以下のメンバーを関西支部の理事役員とする。

1. Past 役員

Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer, Past Committee Chair についても、Chair もしくは理事会で指名した場合には、理事役員とする。

2. Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者

現行 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer の残り任期が 1 年以下の期間に、Chair もしくは理事会で指名した場合に、次期 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者を理事役員とする。なお、立候補予定者は、次期役員として立候補することを前提とする。また、候補予定者が役員となる時には、Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer は原則として役員を退任する。

3. 適用日

本規定は、2018 年 1 月 31 日から適用する。

2018 年 1 月 30 日理事会承認

参考

By Laws より

such other members appointed by the Section Executive Committee, and such other members appointed by the Section Chairman.

MGA Operation Manual/9.4 Sections/D. Section Management

1. The Section affairs shall be managed by an Executive Committee consisting of the elected officers. The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed. Chapter and Affinity Group Chairs, as elected by their membership, are considered "elected" official, as is the Past Section Chair.

※その他の Past Vice Chair, Past Committee Chair 等については、記載がない

2. All Chapters and Affinity Groups in the Section shall have voting representation either individually or collectively on the Section Executive Committee, and the Subsection Chairs shall be ex-officio members with voting power.

3. Sections may have Student representation on the Executive Committee through appointment of one Student member and/or the Chair of the Section Student Activities Committee. It is recommended that every Section have a Section Student Representative (SSR), who is a voting member of the Section Committee, in Sections where there is at least one Student Branch.

4. A quorum is required for administrative meetings. A majority of the voting members the committee shall constitute a quorum. These meetings shall be conducted in accordance with Robert's Rules of Order (latest version) as the standard parliamentary authority.

5. Reasonable efforts should be made to notify all members of Section meetings and activities. Methods of communication could be, but are not limited to, email distributions (in keeping with IEEE email policies), postings on Section Web sites, social media venues, or hard copy distributions.

関西支部では、Chair, Vice Chair, Secretary, Treasurer, MDC Chair, NC Chair, SAC Chair, TPC Chair, AC Chair, COC Chair の 10 名 + LMAG Chair, WIE Chair, YP Chair, Past Chair の合計 14 名が選挙で選ばれた役員/理事。従って、役員/理事総数は 27 名以下。なお、Past Chair も退任する場合、Secretary と Treasurer が兼任の場合には、役員/理事会総数は 25 名以下。

基本的には、Elected 扱いの Past Chair が残っていれば、他のすべての役職の Past もしくは立候補予定者が入っても、必ず、選挙で選ばれた役員は過半数を超えるが、Past Chair の代わりに Chair 立候補予定者となってしまうと、どれかの役職の Past もしくは立候補予定者が理事会に入らない状態にならないければ、選挙で選ばれた役員数が過半数を超える状態にならないため、注意が必要。

(参考) 関西支部各チャプターにおける国際会議 Sponsorship の承認手続きについては、以下の JCCOC の手続きに従うこととする。

国際会議 Sponsorship の承認手続きについて

2018年12月18日

2019年02月14日 改訂

2019年10月31日 改訂

Japan Council Chapter Operations Committee Chair 福田

Tokyo Section Chapter Operations Committee Chair 奥村

Japan Council Secretary 滝嶋

1. Chapter が関わる Sponsorship の承認手順

(0) IEEE 側の担当者 (Chapter 等) は、共催/協賛の承認手続きに先だち次を済ませておく。

- ・ 営利団体への共催、協賛は、原則、行わない、ことの確認

IEEE Policy 10.1.2 項参照

https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf

- ・ 事前に相手先の組織を確認し、実態不明の組織との「共催」とならないことを確認
- ・ Organizational Unit (OU)間の協議で、Financial Co-sponsorship か Technical Co-sponsorship かを決定
- ・ 関係するOU 間で責任分担を明確にして、MOU を作成

(1) 国際会議主催者がIEEE Conference Application からweb 登録後、IEEE MCE より、該当するOU (Section) Officer に承認依頼が届くので、Section Secretary は、Section 事務局に送付し採番(#1)を依頼し、事務局はSection COC (Chair)に検討依頼を行う。

#1 事務局通し番号、会議名、MOU 記載の会議番号、TCS/FCS の識別、関連Chapter、関連支部、IEEE MCE からの送付日、審議期間、審議状況等を記録する。

(2) Section COC(Chair)は該当するChapter に対して、確認、審議を行う。

複数のSection のChapter からなるJoint Chapter が該当する場合、または、その依頼の場合には、Main Section だけでなくJoint のすべてのSection のChair, Secretary (#2), (当該Section に存在する場合) COC とも期限を定めて審議を行う。

協議時間は、1 週間を目安としながら、案件ごとにSection のCOC (Chair)が設定する。

#2 Main Section 以外のSection の Chair, Secretary は、審議結果を依頼元の Section COC (Chair) に電子メールにて報告する。この際に、本部web での結果登録を行っては「ならない」。

審議においては、Section COC(Chair)は以下を行う。

① TCS の場合は、TCS-Fee の負担組織を確認する。TCS-Fee は、Conference の主催者、Chapter/Section、その両者の分担の3 つのケースがある。あらかじめ設定した期限までにSection から非承認回答がなければ、承認として処理する。

- * IEEE のTechnical Co-Sponsorship Fee (TCS-Fee) が2019 年1 月1 日より導入され、IEEE Geo Unit とTCS を締結している国際会議は1,000 ドルに加え、IEEE Xplore 掲載費として15 ドル/Paper の費用負担を行う。なお、Xplore に掲載しない場合でも、定額1,000 ドルを負担する。

【参考】 MGA Operations Manual : 10.4Conference involvement, C-2 TCS Fee
https://mga.ieee.org/images/files/MGA_Operations_Manual_02.2018.pdf

② FCS の場合は、支部負担がないことを担保するため、次のことを確認する。

- ・ 「関係Section は一切の金銭負担は負わないこと」をChapter に伝えるとともに、
- ・ 「会議が最悪ケースでも赤字予算にならないこと」を確認し、Section の確認に移ることとする。
- ・ FCS については、関係全Section からの承認回答を以て承認とする。

(3) Section Secretary は、COC の答申結果に基づき、次の処理を行う。

- ・ TCS の場合は、Section Secretary が承認(web)して、後日、Section 理事会で報告する。
- ・ FCS の場合は、Section の理事会でメール審議を行い、承認後にSection Secretary が承認(web)を行う。

(4) 費用負担が発生する場合の注意点

- ・ Chapter/Section が費用負担を行う場合（負担率(%)が0 でない場合）、負担分の収支の確認のため予算案を同時にChapter から提出いただく。
- ・ 国際会議主催者が IEEE Conference Application からweb 登録を行う前に、事前にChapter/Section に費用負担の承認を求める場合がある。その場合も同様に、上記の手続きにより対応する。承認を得たのち、正式にweb 登録してもらう。

【参考】 IEEE Policy 10.1.4 項

https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf

2. Chapter が関係しないSection でのSponsorship の承認手順

国内学会等からのSection 宛の協賛依頼については、Section 理事会のメール審議で協賛の可否を審議し、承認後に依頼元へ事務局から回答する。

3. MOU を必要としないChapter でのSponsorship 処理について

以下の場合、MOU を必要としない。

この場合Chapter 内で可否を審議判断し、所属Section 等には結果の報告を行う。

- (1) 会議の財政規模（収入または支出の多い方）が25,000USD を超過する会議において、当該Chapter の担当内容が、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合
(運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)、物品貸与を伴わない場合)

- (2) 会議の財政規模が25,000USD 以下の会議において、当該Chapter の担当内容が、物品貸与、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合
(運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)を伴わない場合)

#3 運営収支が支出過剰になった場合に財政負担を行うような責任

#4 運営資金の一部または全部を支出するまたは物品を供出する責任

※ 注意点

- ・ いずれの場合にも、営利団体への共催、協賛等は、原則、行わない。
- ・ 役務や責任に対する認識相違を防止するため、依頼元からはIEEE 側の役務や責任を明記した依頼状を受領することとし、協賛等の可否判断の審議に供することとする。
- ・ 上記の諸条件で規定できない何等かの責任を負う場合には、責任の内容によってはMOU を締結することが好ましい場合がある。判断に迷う場合には、支部、或いはJCCOCに問い合わせる
- ・ Logo の使用に当たってはIEEE Policy 6.3.2 項、10.1.17 項、12.1 項に準拠のこと
https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf

【参考】 MOU の要否判断例

(A) 財政規模が 25,000USD を超過する会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断

(B) 財政規模が 25,000USD 以下の会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 3、4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断

以上

2022 年 IEEE 関西支部連絡先
〒540-6207 大阪府 大阪市 中央区 城見 2-1-61
OBP パナソニックタワー7階
パナソニック株式会社 知的財産センター 内
IEEE 関西支部事務局
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>